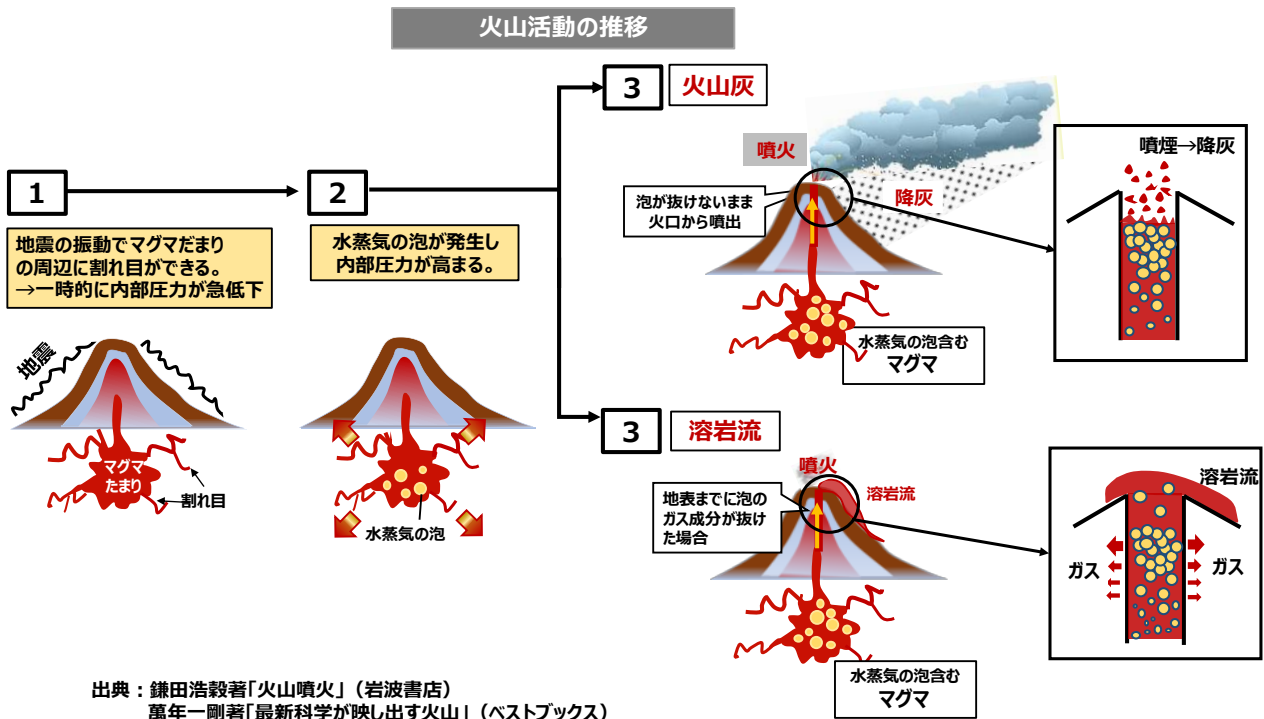


火山活動の推移



※地表までにガス成分が抜けきれる状態により、降灰発生しつつ溶岩流の流出となることもある。

別紙2 「噴火シナリオと火山活動の推移に応じた避難対処」

<p>宝永噴火時の推移</p>	<p>噴火開始前数十日 ← 噴火開始前数十日 ← 噴火前日から直前 ← 15日間 ← 降灰後～数十年 →</p> <p>・山中で有感地震 ・鳴道の発生</p> <p>・山麓で有感地震が増加</p> <p>・有感地震が多発</p> <p>・大規模な噴火の発生 ・大規模火山灰等が広範囲に堆積</p> <p>・降灰後土石流の発生</p>																						
<p>噴火警報等</p>	<p>噴火予報</p>		<p>火口周辺警報</p>			<p>噴火警報</p>			<p>火口周辺警報</p>		<p>噴火予報</p>												
<p>警戒レベル</p>	<p>レベル1</p>	<p>火山状況 開設情報（臨時）</p>	<p>レベル3</p>			<p>レベル4</p>	<p>レベル5</p>		<p>レベル5</p>	<p>レベル4</p>	<p>レベル3</p>	<p>レベル2</p>	<p>レベル1</p>	<p>レベル1</p>									
<p>噴火活動の想定</p>	<p>平常</p> <p>【居住地域近辺まで重大な影響のある小さな噴火】 ・火山性地震 ・地殻変動 ・噴煙 ・溶岩流出 注）噴火口の位置が特定できないため【レベル1】 →【レベル3】と警戒レベルがある。</p> <p>【噴火規模増大】→ 【居住地域に重大な被害を及ぼす噴火の可能性】 ・火山性地震活発化 ・地殻変動 ・噴煙活動活発化 ・溶岩流流出量増加</p> <p>【噴火規模増大】→ 【居住地域に重大な被害を及ぼす噴火の発生または切迫状態】 ・火口位置特定 ・火山灰降下・噴石落下 ・火山性地震活発化 ・地殻変動 ・火砕流 火山泥流 ・溶岩流流出量増加</p> <p>【噴火規模縮小】 →噴火を繰り返しながら噴火規模の縮小</p> <p>【噴火規模縮小】 →影響箇所は火口周辺</p> <p>平常</p> <p>噴火活動の沈静化</p>																						
<p>火口周辺自治体の 応急対策</p>	<p>入山規制</p> <p>情報収集体制</p> <p>◆災害対策本部設置 ◆第1次避難対象エリア避難 ◆エリア内観光客・登山者：避難、入山規制</p>			<p>◆第2次避難対象エリア 避難 ◆エリア内観光客・登山者 ：避難、入山規制</p>			<p>◆第4次避難エリアAより 内側避難 ◆エリア内観光客・登山者 ：避難、入山規制</p>			<p>◆第4次避難エリアBより 内側避難 ◆エリア内観光客・登山者 ：避難、入山規制</p>			<p>◆状況に応じ避難対象エリアの縮小検討 →縮小 ◆降雨時、警戒避難（降灰後土石流対象地域）</p> <p>情報収集体制</p>										
<p>社会情勢</p>	<p>報道の過熱 報道関係者が増加</p> <p>地域から離れる人の増加・渋滞発生・帰宅困難者発生</p> <p>通信の混乱・不確実な情報の増大（デマ情報）</p> <p>観光客の減少</p> <p>応援部隊・ボランティア活動の本格化</p>																						
<p>開成町の 対処</p>	<p>入手すべき情報 (E E I O I R)</p> <p>噴火に関する情報</p> <p>降灰があった場合：1 その量は？ 2 避難に及ぼす影響は？</p> <p>溶岩流が流出した場合：1 火口位置は？ 2 溶岩流の流出方向、流出速度は？</p> <p>溶岩流が開成町方向に流出した場合：上記+1 溶岩流の先端位置は？ 2 流入区域の被害の様相は？</p> <p>溶岩流流出が止まった場合：1 町の被害状況は？ 2 広域避難後の場合、町への帰還は可能か？</p>	<p>噴火警戒本部</p> <p>噴火災害対策本部</p> <p>●学校休校処置 ●児童生徒等引取り手配</p> <p>避難対策本部</p> <p>◆広域避難</p> <p>◆避難長期化対策：公共住宅等確保</p> <p>◆帰還開始・完了 溶岩流流下エリアとなった場合：移住先確保、仮設住宅設置</p> <p>閉鎖</p> <p>閉鎖</p> <p>降灰時の対処</p> <p>道路降灰厚0.02cm：除灰開始</p> <p>降灰厚15cm：避難準備</p> <p>降灰厚25cm：避難指示</p> <p>降灰厚30cm：避難完了</p>																					
<p>噴火後の 様相に応じた 対処</p>	<p>噴火後の様相</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>噴煙柱の確認状況</th> <th>対処</th> <th>留意事項</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大規模な噴煙柱が確認できる場合 ：降灰</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 降灰予想、原則、屋内で安全確保 木造家屋、降灰厚30cm以上かつ降雨→倒壊リスク きしみ・歪みが生じた場合：近隣の堅牢建物へ避難 溶岩流の流下、家屋倒壊の可能性、近隣火災発生時は、速やかに立退き避難(ヘルメット・ゴーグル・マスク着用) 支柱間が長い建物(一部の体育館)は降灰の重みで屋根損傷の可能性があり、避難所に使用しない。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●噴火直後：火口位置及び溶岩流流下の有無を確認流下があれば溶岩流からの避難行動実施 ●降灰による建物被害を除き生命・身体に深刻な危険は及ばない。 ●車両スタックによる道路機能が失われた場合、その後の応急対策に影響が発生するため 車両使用の制限が必要 ●停電・断水・物流の停滞により生命・身体に危険が及ぶ可能性あり。 </td> </tr> <tr> <td>大規模な噴煙柱が確認できない場合 ：溶岩流</td> <td> <p>【溶岩流の流下方向】 情報に注視し、順次フェーズ引き上げ、避難準備</p> <p>【溶岩流が流下しない方向】 被災エリアの支援実施の可否を判断</p> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●噴火の状況(溶岩流の流下規模)により避難の拡大・縮小を行う。 ●溶岩流が流下した土地は、発災前と同じ用途で使用することが困難である。 溶岩流流下エリアについては、移住先を確保する必要がある。 </td> </tr> </tbody> </table>														噴煙柱の確認状況	対処	留意事項	大規模な噴煙柱が確認できる場合 ：降灰	<ul style="list-style-type: none"> 降灰予想、原則、屋内で安全確保 木造家屋、降灰厚30cm以上かつ降雨→倒壊リスク きしみ・歪みが生じた場合：近隣の堅牢建物へ避難 溶岩流の流下、家屋倒壊の可能性、近隣火災発生時は、速やかに立退き避難(ヘルメット・ゴーグル・マスク着用) 支柱間が長い建物(一部の体育館)は降灰の重みで屋根損傷の可能性があり、避難所に使用しない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●噴火直後：火口位置及び溶岩流流下の有無を確認流下があれば溶岩流からの避難行動実施 ●降灰による建物被害を除き生命・身体に深刻な危険は及ばない。 ●車両スタックによる道路機能が失われた場合、その後の応急対策に影響が発生するため 車両使用の制限が必要 ●停電・断水・物流の停滞により生命・身体に危険が及ぶ可能性あり。 	大規模な噴煙柱が確認できない場合 ：溶岩流	<p>【溶岩流の流下方向】 情報に注視し、順次フェーズ引き上げ、避難準備</p> <p>【溶岩流が流下しない方向】 被災エリアの支援実施の可否を判断</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●噴火の状況(溶岩流の流下規模)により避難の拡大・縮小を行う。 ●溶岩流が流下した土地は、発災前と同じ用途で使用することが困難である。 溶岩流流下エリアについては、移住先を確保する必要がある。
噴煙柱の確認状況	対処	留意事項																					
大規模な噴煙柱が確認できる場合 ：降灰	<ul style="list-style-type: none"> 降灰予想、原則、屋内で安全確保 木造家屋、降灰厚30cm以上かつ降雨→倒壊リスク きしみ・歪みが生じた場合：近隣の堅牢建物へ避難 溶岩流の流下、家屋倒壊の可能性、近隣火災発生時は、速やかに立退き避難(ヘルメット・ゴーグル・マスク着用) 支柱間が長い建物(一部の体育館)は降灰の重みで屋根損傷の可能性があり、避難所に使用しない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●噴火直後：火口位置及び溶岩流流下の有無を確認流下があれば溶岩流からの避難行動実施 ●降灰による建物被害を除き生命・身体に深刻な危険は及ばない。 ●車両スタックによる道路機能が失われた場合、その後の応急対策に影響が発生するため 車両使用の制限が必要 ●停電・断水・物流の停滞により生命・身体に危険が及ぶ可能性あり。 																					
大規模な噴煙柱が確認できない場合 ：溶岩流	<p>【溶岩流の流下方向】 情報に注視し、順次フェーズ引き上げ、避難準備</p> <p>【溶岩流が流下しない方向】 被災エリアの支援実施の可否を判断</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●噴火の状況(溶岩流の流下規模)により避難の拡大・縮小を行う。 ●溶岩流が流下した土地は、発災前と同じ用途で使用することが困難である。 溶岩流流下エリアについては、移住先を確保する必要がある。 																					

平常時



Google Earth使用

噴火 溶岩流流出



Google Earth使用

溶岩流 流出から

2

時間



陸自富士学校

Google Earth使用

溶岩流
流出から

6

時間



Google Earth使用

溶岩流
流出から

12 時間



Google Earth使用

溶岩流
流出から

24 時間



小山町役場

大雄山駅

大雄山線

●開成町役場

小田急線

開成駅

栢山駅

御殿場線

●松田町役場

新松田駅

●大井町役場

相模金子駅

東名高速道路

御殿場線

Google Earth使用

溶岩流
流出から

48 時間



Google Earth使用

溶岩流
流出から

3日



清水橋

大雄山駅

大雄山線

●開成町役場

小田急線

開成駅

栢山駅

御殿場線

●松田町役場

新松田駅

●大井町役場

相模金子駅

御殿場線

東名高速道路

Google Earth使用

溶岩流
流出から

4日



Google Earth使用

溶岩流
流出から

5日



Google Earth使用

溶岩流
流出から

6 日



Google Earth使用

溶岩流
流出から

7日



Google Earth使用

溶岩流
流出から

8 日



Google Earth使用

溶岩流
流出から

9 日



Google Earth使用

溶岩流 流出から 10 日



Google Earth使用

溶岩流
流出から

11日



Google Earth使用

溶岩流 流出から 12日



大雄山駅
大雄山線
小田急線
開成駅
相模金子駅
新松田駅
松田町役場
大井町役場
開成町役場
御殿場線
東名高速道路

Google Earth使用

溶岩流
流出から

13日



Google Earth使用

溶岩流 流出から 14 日



Google Earth使用

溶岩流
流出から

15日



Google Earth使用

溶岩流
流出から

16日



Google Earth使用

溶岩流 流出から 17日



Google Earth使用

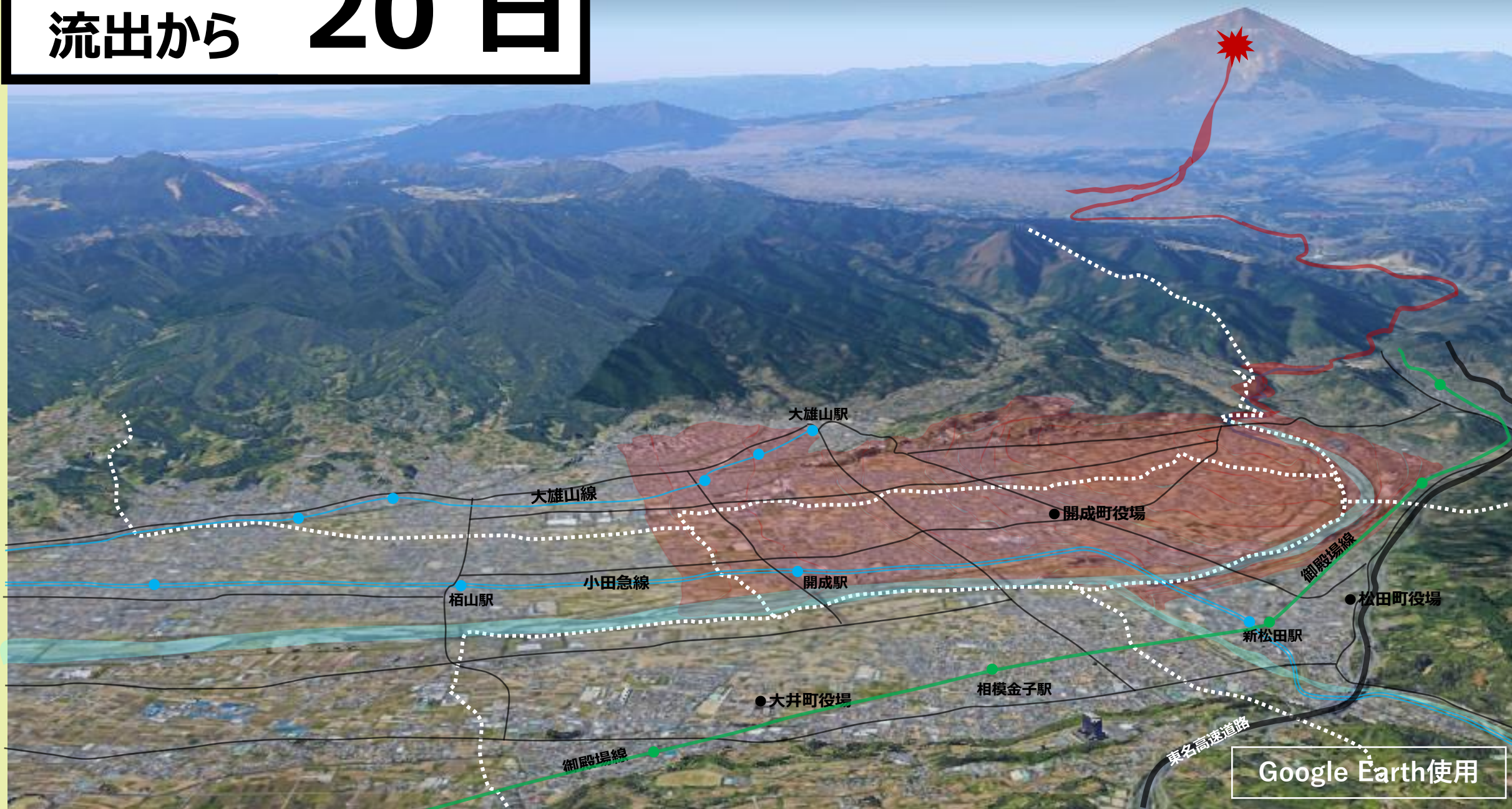
溶岩流 流出から 18日



Google Earth使用

溶岩流
流出から

20 日



Google Earth使用

溶岩流
流出から

25 日



Google Earth使用

溶岩流
流出から

30 日

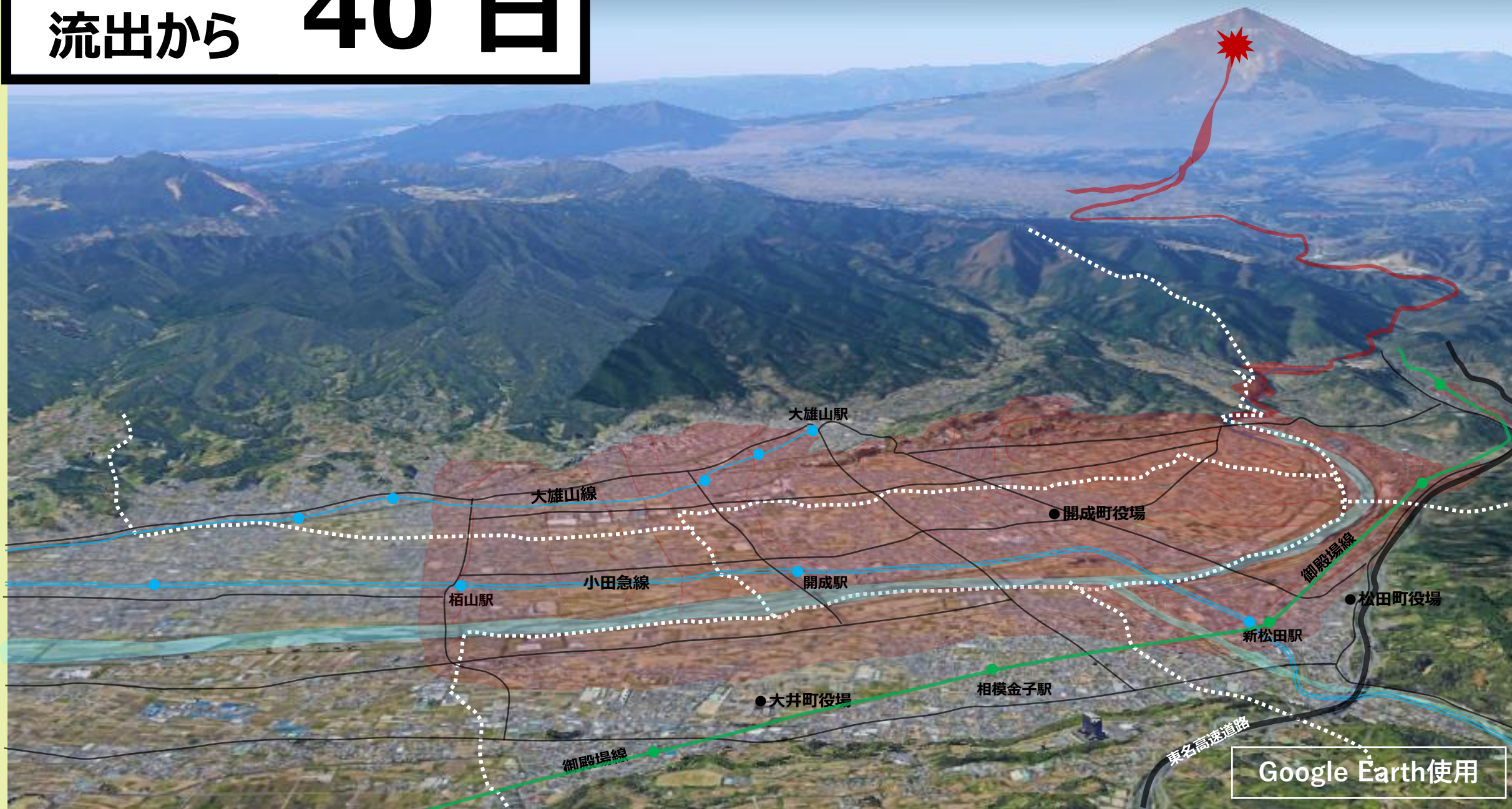


Google Earth使用

溶岩流 流出から 35 日



溶岩流 流出から 40 日



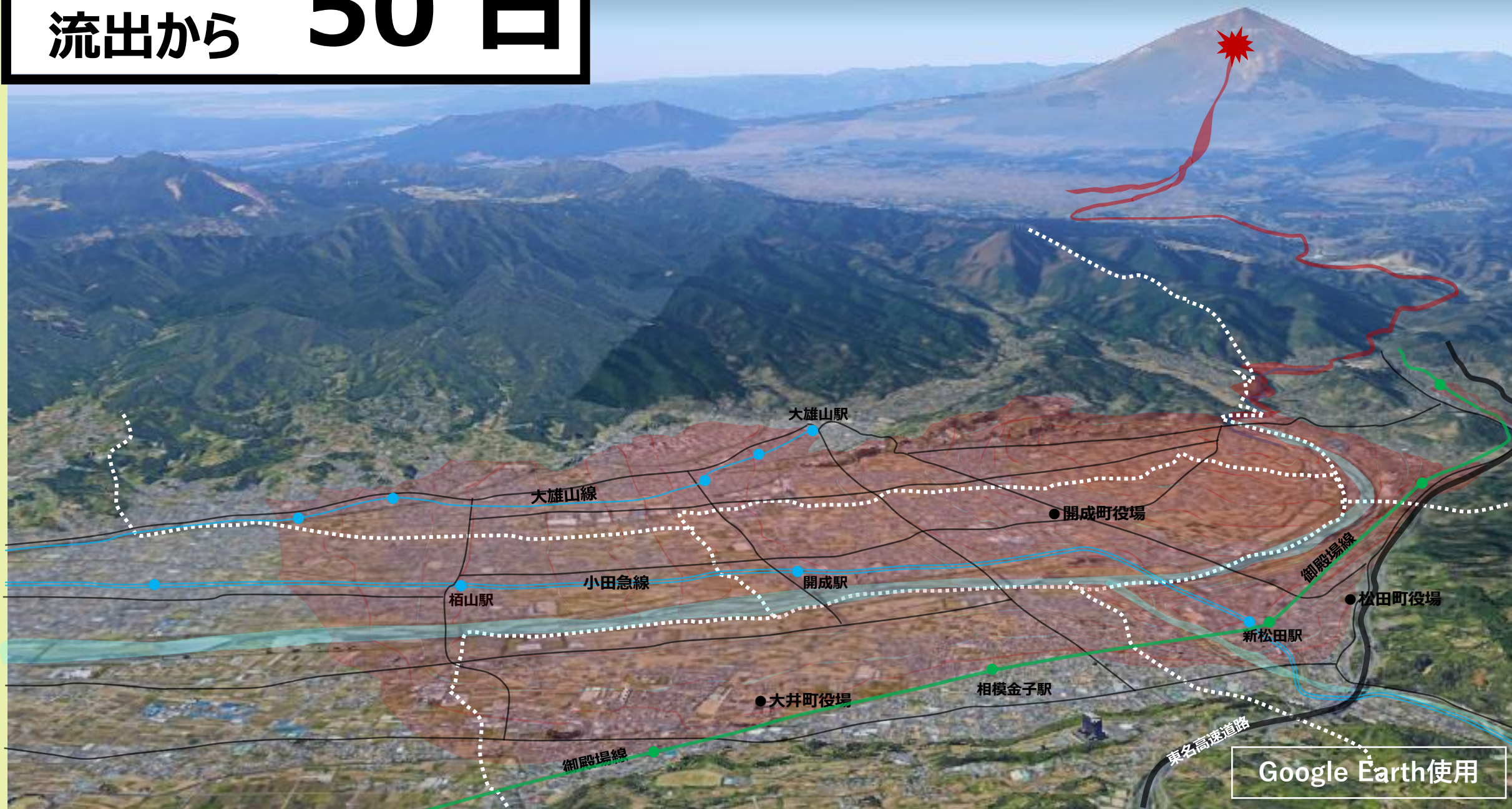
Google Earth使用

溶岩流 流出から 45 日



Google Earth使用

溶岩流 流出から 50 日



Google Earth使用

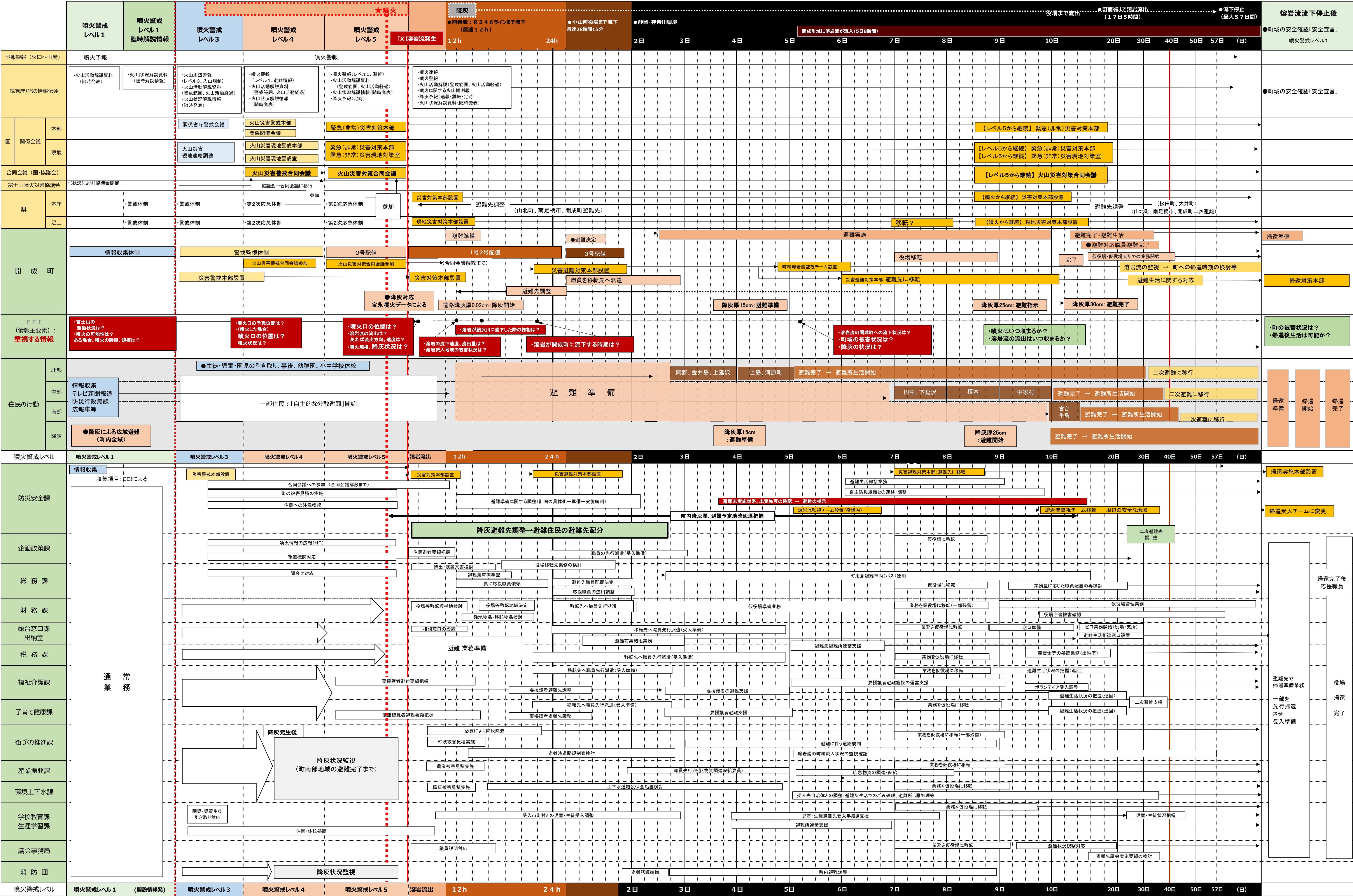
溶岩流 流出から 57 日



Google Earth使用

別紙4 「噴火に伴う全般時程」

※噴火警戒レベル3・4で噴火した場合を含む



溶岩流
流出から

2 時間



富士学校

● 山北町役場

● 新大口橋

Google Earth使用

溶岩流
流出から

6 時間

富士学校

● 山北町役場

● 新大口橋

Google Earth使用

溶岩流
流出から

12時間

● 国道246号

● 避難準備

● 山北町役場

● 新大口橋

Google Earth使用

溶岩流
流出から

24時間

● 小山町役場

● 避難決定

● 山北町役場

● 新大口橋

Google Earth使用

溶岩流
流出から

48時間

県境


清水橋

● 避難指示

● 山北町役場

● 新大口橋

Google Earth使用

An aerial photograph of a volcanic region. A prominent volcano is at the top center, with a red starburst at its peak. A thick red line starts at the volcano and winds down a valley, passing through a town. The terrain is rugged with green hills and brownish volcanic ash. In the top right corner, there is a black-bordered white box containing text. In the bottom right corner, there is a white-bordered black box containing text. Two white dots with labels are placed on the map.

溶岩流
流出から

3 日

北部自治会から順に
数日間をかけて避難

● 山北町役場

● 新大口橋

Google Earth使用

溶岩流
流出から

3日

岡野・金井島・上延沢
避難

新十文字橋

足柄大橋

足柄紫水大橋

町保有航空写真使用



溶岩流
流出から

4日

上島・河原町
避難

新十文字橋

足柄大橋

足柄紫水大橋

町保有航空写真使用



溶岩流
流出から

5日



新十文字橋

足柄大橋

足柄紫水大橋

町保有航空写真使用

溶岩流
流出から

6日



下延沢・円中
避難

新十文字橋

足柄大橋

足柄紫水大橋

町保有航空写真使用

溶岩流
流出から

7日



新十文字橋

足柄大橋

足柄紫水大橋

町保有航空写真使用

溶岩流
流出から

8日



榎本
避難

新十文字橋

足柄大橋

足柄紫水大橋

町保有航空写真使用

溶岩流 流出から

9日



新十文字橋

中家村 避難

足柄大橋

足柄紫水大橋

町保有航空写真使用

溶岩流 流出から 10日



宮台・牛島
避難

新十文字橋

足柄大橋

足柄紫水大橋

町保有航空写真使用

溶岩流 流出から 11日



下島・パレットガーデン
避難

新十文字橋

足柄大橋

足柄紫水大橋

町保有航空写真使用

溶岩流 流出から 12日



みなみ
避難

新十文字橋

足柄大橋

足柄紫水大橋

町保有航空写真使用

溶岩流 流出から 13日



新十文字橋

足柄大橋

足柄紫水大橋

町保有航空写真使用

溶岩流 流出から 14日



新十文字橋

足柄大橋

足柄紫水大橋

町保有航空写真使用

溶岩流 流出から 15日



新十文字橋

足柄大橋

足柄紫水大橋

町保有航空写真使用

溶岩流 流出から 16日



新十文字橋

足柄大橋

足柄紫水大橋

町保有航空写真使用

溶岩流 流出から 17日



新十文字橋

足柄大橋

足柄紫水大橋

町保有航空写真使用

溶岩流 流出から 18日



新十文字橋

足柄大橋

足柄紫水大橋

町保有航空写真使用

別紙6 各段階における実施事項 1

「火山の状況に関する解説情報（臨時）」発表

噴火警戒レベル3

噴火 災害対策本部設置

実施事項

1 情報収集

(1) 収集すべき情報 (EEI OIR)

噴火前	噴火の可能性は？ ある場合、その時期、規模は？
噴火後	噴火口の位置は？ 噴煙の高さは？ 噴火の様相は？ (火山灰の状況は？ 溶岩流の流出は？ あれば流出方向、速度は？)

(2) 収集要領

ア 報道機関からの収集
イ 気象庁、協議会、県等からの情報収集
ウ 富士山ライブカメラ
(富士砂防事務所・テレビ山梨) 活用

2 広報

「噴火警戒レベル」に応じ
「防災行政無線」、「ホームページ」を
活用した住民広報を実施

3 「噴火警戒レベル3」発表後

- 1 小中学校、幼稚園：休校
- 2 児童生徒等：父兄への引き渡し処置

溶岩流出開始：「X」時

災害対策本部

溶岩流流出

実施事項

1 情報収集

(1) 収集すべき情報 (EEI OIR)

噴火前	噴火の可能性は？ ある場合、その時期、規模は？
噴火後	噴火口の位置は？ 噴煙の高さは？ 噴火の様相は？ (火山灰の状況は？ 溶岩流の流出は？ あれば流出方向、速度は？)

(2) 収集要領

ア 報道機関からの収集
イ 気象庁、協議会、県等からの情報収集
ウ 富士山ライブカメラ
(富士砂防事務所・テレビ山梨) 活用

2 広報

「噴火警戒レベル」に応じ
「防災行政無線」、「ホームページ」を
活用した住民広報を実施

X+12h

「避難準備」

避難対策本部設置

溶岩流流出

国道246号まで流下

実施事項

- 1 受入避難先調整（避難先集結地、避難場所）
- 2 避難者の避難先割り振り
- 3 避難用車両（バス）の手配
- 4 応援職員の依頼
- 5 相談窓口の設置
- 6 要支援避難者把握（避難者数、避難要領）
- 7 役場移転準備
(残置物品、移転物品振分け等)

X+24h

「避難決定」

避難対策本部

3号配備

小山町役場まで流下

実施事項

- 1 職員の避難先への先行派遣
(仮役場準備業務、避難者受入準備業務)
- 2 避難時の通行規制周知
- 3 避難先市町村との生徒、児童受入調整
- 4 役場移転準備業務
- 5 避難先での役場業務検討
- 6 「広域避難の流れ」※を町民に配布

※「広域避難の流れ」

- (1) 避難スケジュールと避難実施日
- (2) 避難当日までに実施する事項
- (3) 避難当日の流れ
- (4) 避難先について
- (5) 避難生活について

別紙6 各段階における実施事項 2

X+48h
「避難開始」前日

静岡神奈川県境付近まで流下

● 役場

実施事項

- 1 職員の避難先への先行派遣：**継続**
(仮役場準備業務、避難者受入準備業務)
- 2 避難時の通行規制周知：**継続**
- 3 避難先市町村との生徒、児童受入調整：**継続**
- 4 役場移転準備業務：**継続**
- 5 避難先での役場業務検討：**継続**
- 6 「広域避難の流れ」について問合せ・相談窓口設置

5

X日+72h(3日)
「避難」
(岡野、金井島、上延沢)

避難開始ポイント(清水橋)

● 役場

● 東名大井松田IC

実施事項

【町域】

- 町内交通規制
- 避難手続き(避難前集結地)
- 避難用車両(バス)運用

【避難先】

- 避難先での受入
- 仮役場準備
- 職員避難先への先行派遣(受入避難所、物資配給等要員)

避難者見積

自家用車 避難者	避難 車両数	バス 避難者	バス 使用台数
2062人	700台	515人	21台

避難開始 → 避難前集結地 役場駐車場 瀬戸屋敷駐車場 (避難前集結地対応職員) → 避難 (東名高速等) → 避難先自治体集結地 (避難先自治体対応 (開成町職員、避難先自治体職員)) → 避難施設

6

X日+4日
「避難」
(上島・河原町)

● 役場

● 東名大井松田IC

実施事項

【町域】

- 町内交通規制
- 避難手続き(避難前集結地)
- 避難用車両(バス)運用
- 役場移転準備

【避難先】

- 避難先での受入、避難所運営
- 仮役場準備

避難者見積

自家用車 避難者	避難 車両数	バス 避難者	バス 使用台数
1080人	410台	270人	11台

避難開始 → 避難前集結地 役場駐車場 合同庁舎駐車場 (避難前集結地対応職員) → 避難 (東名高速等) → 避難先自治体集結地 (避難先自治体対応 (開成町職員、避難先自治体職員)) → 避難施設

7

X日+5日

● 役場

● 東名大井松田IC

実施事項

【町域】

- 役場移転準備
- 避難手続きの再検討(北部地域の避難要領問題点改善)

【避難先】

- 仮役場準備
- 避難先避難所運営

8

別紙6 各段階における実施事項 3

X日+6日
「避難」
 (円中・下延沢)

実施事項 9

【町域】

- 役場移転準備
- 町内交通規制
- 避難手続き (避難前集結地)
- 避難用車両 (バス) 運用
- 町域の溶岩流の監視

【避難先】

- 仮役場準備
- 避難先での受入、避難所運営

避難者見積

自家用車避難者	避難車両数	バス避難者	バス使用台数
1715人	684台	429人	17台

避難開始 → 避難前集結地 役場駐車場 開成駅西口 → 避難 (東名高速等) → 避難先自治体集結地 → 避難施設

避難前集結地 対応職員
 避難先自治体対応 (開成町職員、避難先自治体職員)

X日+7日

実施事項 10

【町域】

- 役場移転準備
- 避難手続きの再検討 (北部地域の避難要領問題点改善)
- 町域の溶岩流監視

【避難先】

- 避難先避難所運営
- 仮役場準備

X日+8日
「避難」
 (楨本)
「役場移転」

実施事項 11

【町域】

- 町内交通規制
- 避難手続き (避難前集結地)
- 避難用車両 (バス) 運用
- 町域の溶岩流の監視

【避難先】

- 避難先の仮役場へ移転 (町域業務地点は開成南小学校へ)
- 仮役場業務準備
- 避難先での受入、避難所運営

避難者見積

自家用車避難者	避難車両数	バス避難者	バス使用台数
313人	127台	78人	3台

避難開始 → 避難前集結地 役場駐車場 開成駅西口 → 避難 (東名高速等) → 避難先自治体集結地 → 避難施設

避難前集結地 対応職員
 避難先自治体対応 (開成町職員、避難先自治体職員)

町域業務を移転 (避難対応、溶岩流監視)

X日+13日

実施事項 16

【町域】

- 町域の溶岩流の監視

【避難先】

- 仮役場業務準備
- 避難所運営

監視項目

- 溶岩流の先端位置
- 町域の被害状況
- 溶岩流の堆積状況

別紙6 各段階における実施事項 4

X日+10日
「避難」
 (宮台・牛島)

実施事項

- 【町域】
 - 町内交通規制
 - 避難手続き(避難前集結地)
 - 避難用車両(バス)運用
 - 町域の溶岩流の監視
- 【避難先】
 - 仮役場業務準備
 - 避難先での受入、避難所運営

避難者見積

自家用車 避難者	避難 車両数	バス 避難者	バス 使用台数
1132人	402台	283人	11台

避難開始 → **避難前集結地** (開成駅西口 開成駅東口) → **避難** (東名高速等) → **避難先自治体集結地** → **避難施設**

避難前集結地 対応職員
 避難先自治体対応 (開成町職員、避難先自治体職員)

X日+11日
「避難」
 (下島・パレット)

実施事項

- 【町域】
 - 町内交通規制
 - 避難手続き(避難前集結地)
 - 避難用車両(バス)運用
 - 町域の溶岩流の監視
- 【避難先】
 - 仮役場業務準備
 - 避難先での受入、避難所運営

避難者見積

自家用車 避難者	避難 車両数	バス 避難者	バス 使用台数
2329人	1046台	582人	23台

避難開始 → **避難前集結地** (開成駅西口 開成駅東口) → **避難** (東名高速等) → **避難先自治体集結地** → **避難施設**

避難前集結地 対応職員
 避難先自治体対応 (開成町職員、避難先自治体職員)

X日+12日
「避難」
 (みなみ)

実施事項

- 【町域】
 - 町内交通規制
 - 避難手続き(避難前集結地)
 - 避難用車両(バス)運用
 - 町域の溶岩流の監視
 - みなみ地区避難完了後溶岩流監視を除き役場残留業務を終了
- 【避難先】
 - 仮役場業務準備
 - 避難先での受入、避難所運営

避難者見積

自家用車 避難者	避難 車両数	バス 避難者	バス 使用台数
827人	281台	207人	8台

避難開始 → **避難前集結地** (開成駅西口 開成駅東口) → **避難** (東名高速等) → **避難先自治体集結地** → **避難施設**

避難前集結地 対応職員
 避難先自治体対応 (開成町職員、避難先自治体職員)

X日+13日

実施事項

- 【町域】
 - 町域の溶岩流の監視
- 【避難先】
 - 仮役場業務準備
 - 避難所運営

監視項目

- 溶岩流の先端位置
- 町域の被害状況
- 溶岩流の堆積状況

避難開始 → **避難前集結地** (開成駅西口 開成駅東口) → **避難** (東名高速等) → **避難先自治体集結地** → **避難施設**

避難前集結地 対応職員
 避難先自治体対応 (開成町職員、避難先自治体職員)

別紙6 各段階における実施事項 5

X日+14日 17

実施事項

【町域】
●町域の溶岩流の監視

【避難先】
●仮役場業務開始：
窓口業務、避難生活相談窓口
ボランティア受入調整
●避難所運営

監視項目

- 溶岩流の先端位置
- 町域の被害状況
- 溶岩流の堆積状況

X日+15日 18

実施事項

【町域】
●町域の溶岩流の監視

【避難先】
●仮役場業務開始：
窓口業務、避難生活相談窓口
ボランティア受入調整
●避難所運営

監視項目

- 溶岩流の先端位置
- 町域の被害状況
- 溶岩流の堆積状況

X日+16日 19

「監視拠点」移転

実施事項

【町域】
●町域の溶岩流の監視

【避難先】
●仮役場業務開始：
窓口業務、避難生活相談窓口
ボランティア受入調整
●避難所運営

監視項目

- 溶岩流の先端位置
- 町域の被害状況
- 溶岩流の堆積状況

X日+18日 20

実施事項

【町域】
●町域の溶岩流の監視

【避難先】
●仮役場業務開始：
窓口業務、避難生活相談窓口
ボランティア受入調整
●避難所運営

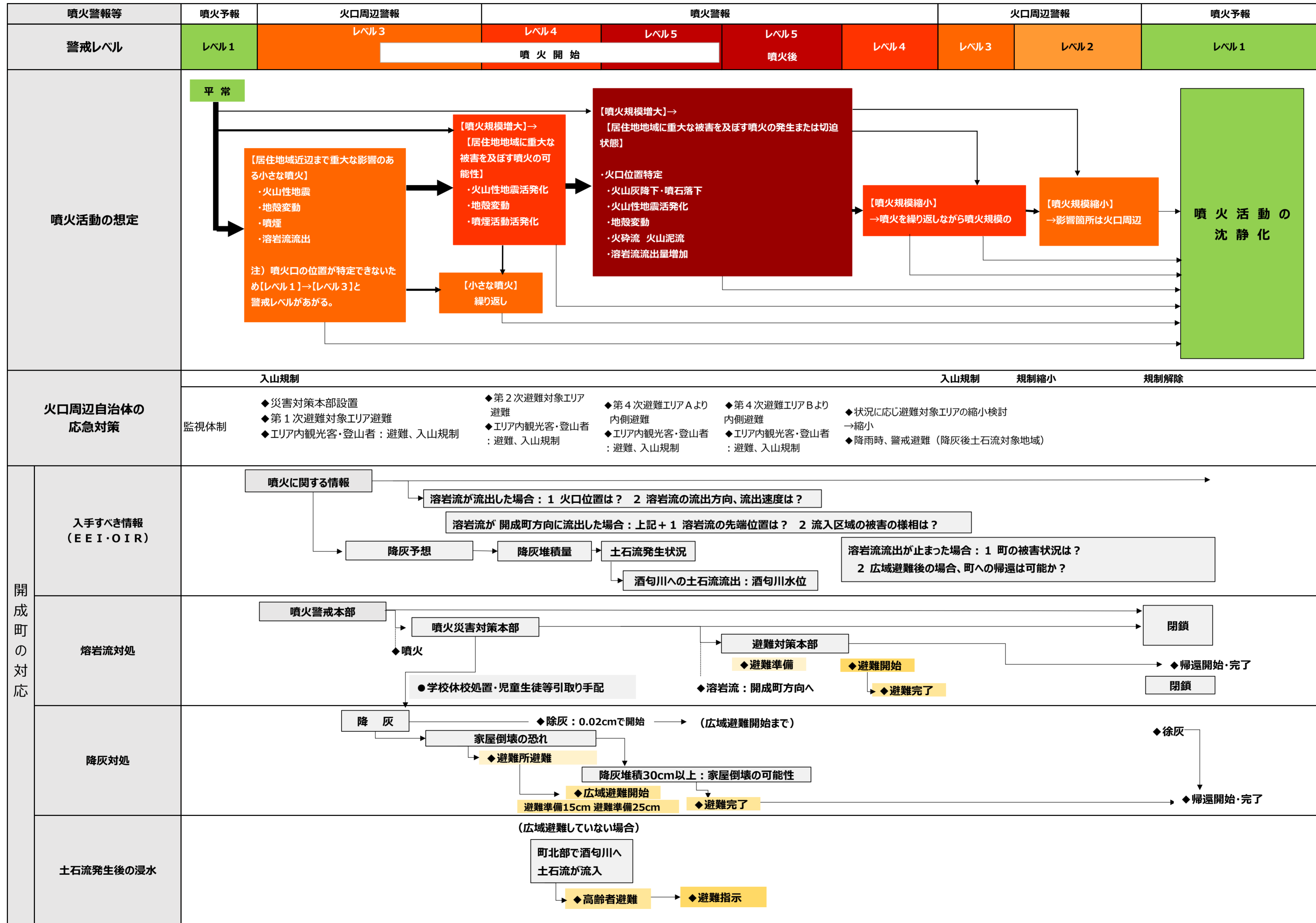
監視項目

- 溶岩流の先端位置
- 町域の被害状況
- 溶岩流の堆積状況

別紙6 各段階における実施事項 6



別紙7 「噴火警戒レベルと避難に関する流れ」



注) 火山活動は急速に高まることもあり噴火警戒レベルが順を追って上昇するとは限らない。

1 避難パターンの区分

※:道路以外の降灰厚
道路は除灰できており
速度低下発生するも通行可

時間経過 →

道路の降灰厚
10 cm : 通行不能
5 ~ 10 cm : 走行速度10km/hに低下
2 ~ 5 cm : 走行速度20km/hに低下
0.1 ~ 2 cm : 走行速度30km/hに低下
【内閣府大規模降灰WG資料より】

溶岩流の状況

鮎沢川・酒匂川沿いに溶岩流発生

溶岩流影響なし
降灰発生

開成町降灰厚※
2 cm

開成町降灰厚※
15cm

開成町降灰厚※
20cm以上

降灰量

噴火規模

小規模噴火
噴煙高度7000m
噴出量2000万³m

(降灰厚1~2cm)
広域避難なし

(可能性なし)

(可能性なし)

中規模噴火
噴煙高度7000m
噴出量2億³m

降灰厚※25cm基準
に広域避難指示

県外 広域避難
(協議会調整)

広域避難

湘南地区
県央地区
西湘地区
を避難先として調整

広域避難

県東部地区
を避難先として調整

県外 広域避難
(協議会調整)

予想避難先
●静岡県内(伊豆)
●韮崎市(協定予定先)を含む甲府盆地

予想避難先
●静岡県内(伊豆)
●韮崎市(協定予定先)を含む甲府盆地※

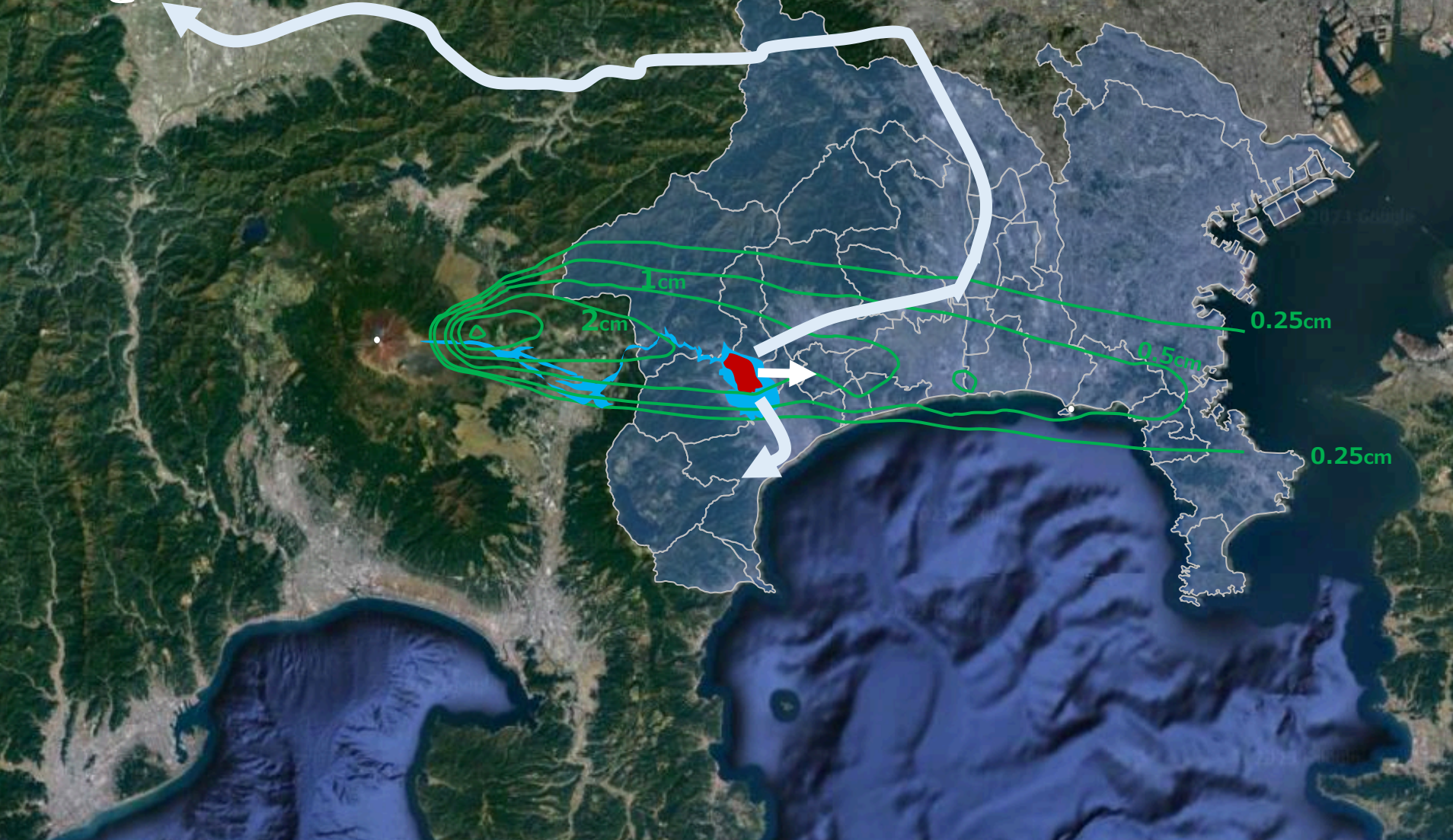
韮崎市
(協定予定先)

韮崎市
(協定予定先)

※中央道に溶岩流が流出した場合、避難経路を中部縦貫道を使用

噴火規模
拡大 ↓

2 開成町方向に溶岩流が流出し、その際降灰量が15cm程度の場合の避難調整先



開成町の降灰厚	2 cm程度
溶岩流の流出	あり
広域避難	県内（近隣）避難

広域避難調整先
 （当初町が調整し
 調整困難な場合
 県を通じ）
湘南地区
県央地区
西湘地区

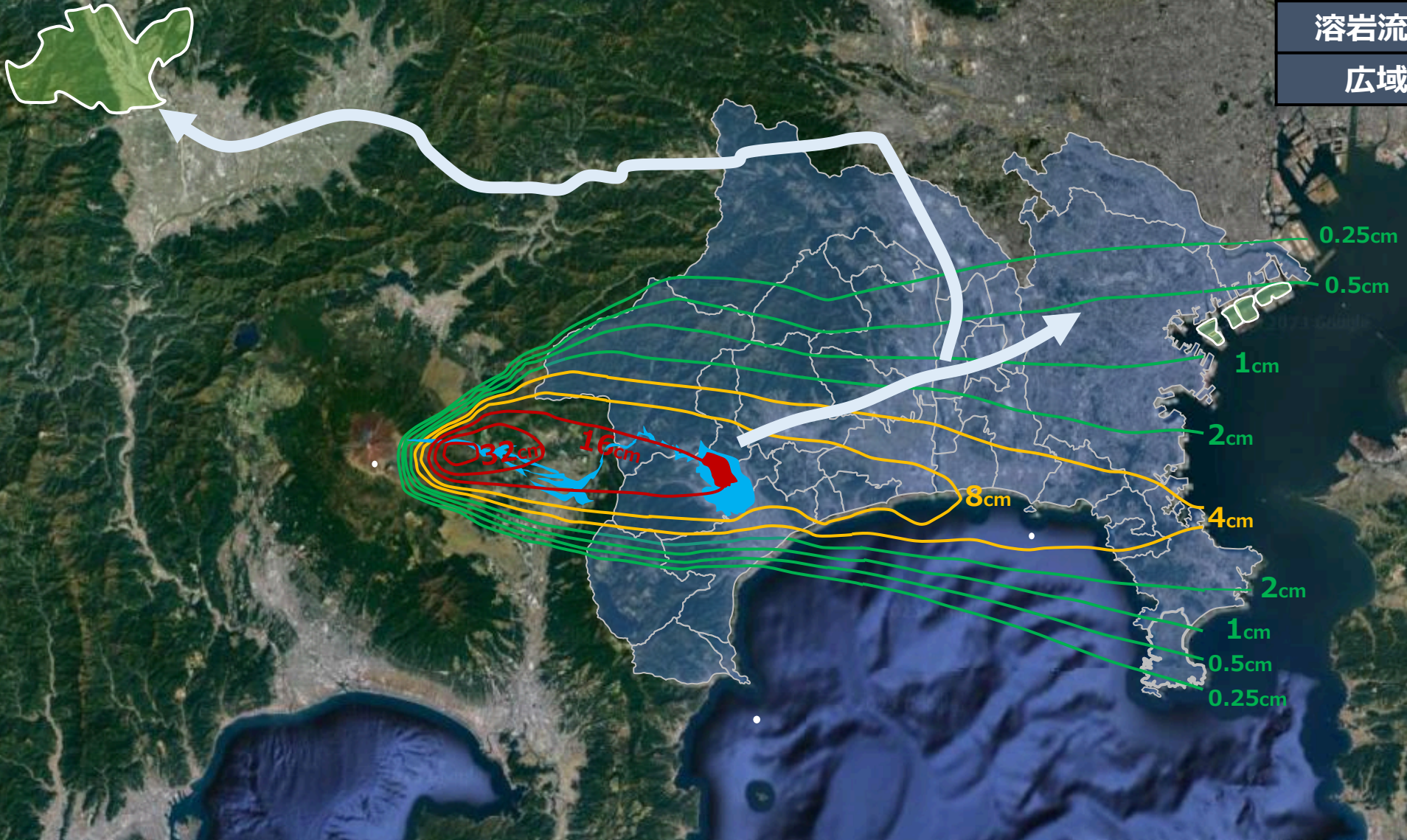
（町が調整）

山梨県韮崎市
 （協定予定先）
 新東名～圏央道～中央道

神奈川県平野部直撃に近い1999年12月4日の風によるシミュレーション
 噴出量：マグマ換算2000万m³（協議会資料）

3 開成町方向に溶岩流が流出し、その際降灰量が15cm程度の場合の避難調整先

開成町の降灰厚	15cm程度
溶岩流の流出	あり
広域避難	県内避難



広域避難調整先
 (当初町が調整し
 調整困難な場合
 県を通じ)
県東部地区

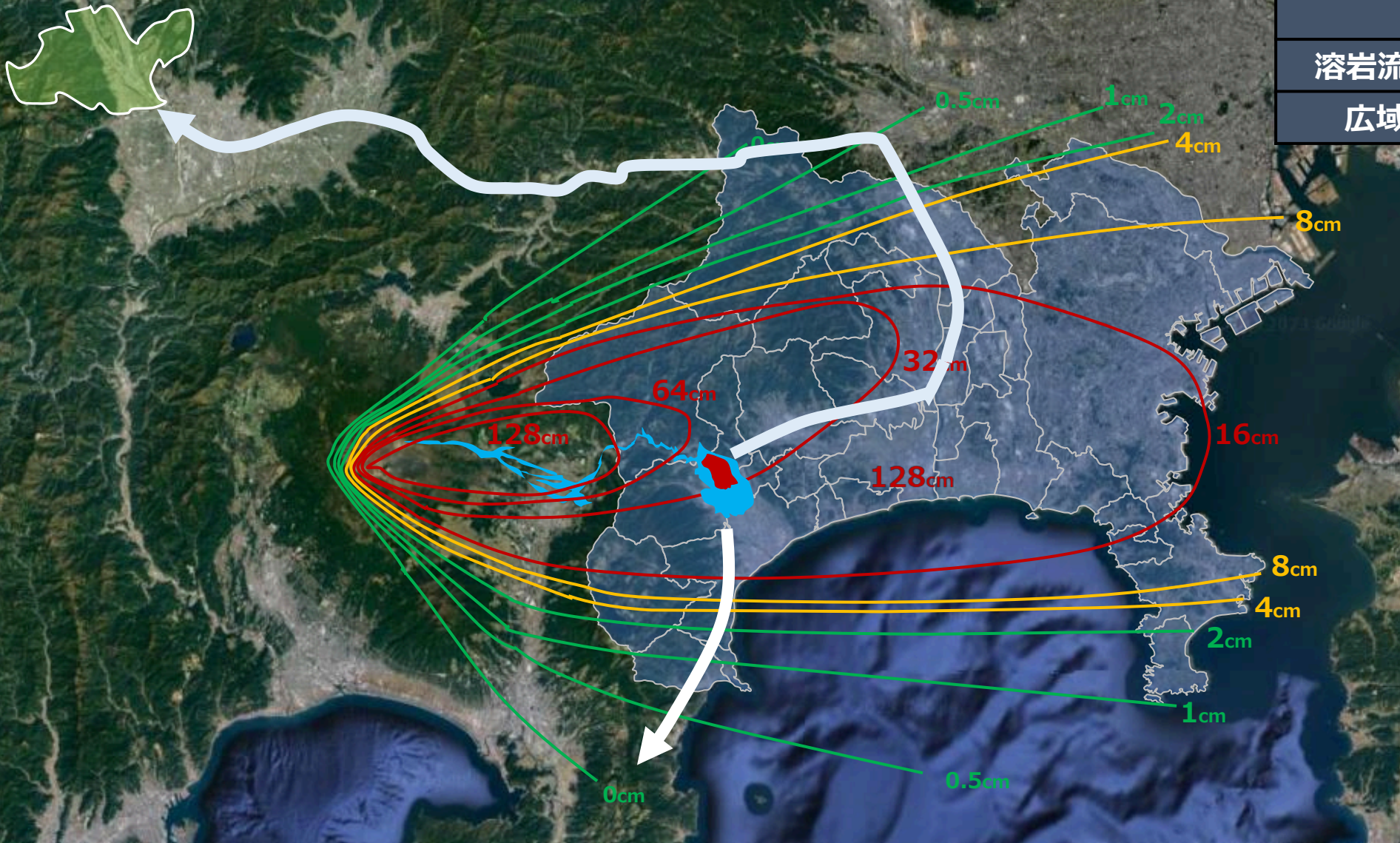
(町が調整)
 山梨県韮崎市
 (協定予定先)
 新東名～圏央道～中央道

神奈川県平野部直撃に近い1999年12月4日の風によるシミュレーション
 噴出量：マグマ換算 2 億³m³ (協議会資料)

参考:宝永噴火6.8億³m³
 貞観噴火13億³m³

4 開成町方向に溶岩流が流出し、その際降灰量が35cm程度の場合の避難調整先

開成町の降灰厚	宝永噴火程度 35cm程度
溶岩流の流出	あり
広域避難	県外避難



広域避難調整先
(協議会・県を通じ)

静岡県伊豆地区

(町が調整)

山梨県韮崎市
(協定予定先)
新東名～圏央道～中央道

宝永噴火の降灰分布
 噴出量：マグマ換算6.8億 m^3 (協議会資料)
 貞観噴火：13億 m^3
 ハザードマップ大規模溶岩流:13億 m^3

5 開成町方向に溶岩流が流出しないが、降灰量が2cm程度の場合の避難調整先

開成町の降灰厚	2 cm程度
溶岩流の流出	流出なし
広域避難	実施しない

降灰の対処基準

レベル3 重機・オペレーター調整

噴火 重機・オペレーター待機

道路降灰厚 0.2cm 除灰開始

降灰量 1.5 cm 避難準備

降灰量 2.5 cm 避難指示

降灰量 3.0 cm 避難完了



神奈川県平野部直撃に近い1999年12月4日の風によるシミュレーション
噴出量：マグマ換算2000万m³(小規模噴火)
(協議会資料)

6 開成町方向に溶岩流が流出しないが、降灰量が15cm程度の場合の避難調整先

開成町の降灰厚	15cm程度
溶岩流の流出	流出なし
広域避難	避難準備

降灰の対処基準

レベル3 → 重機・オペレーター調整

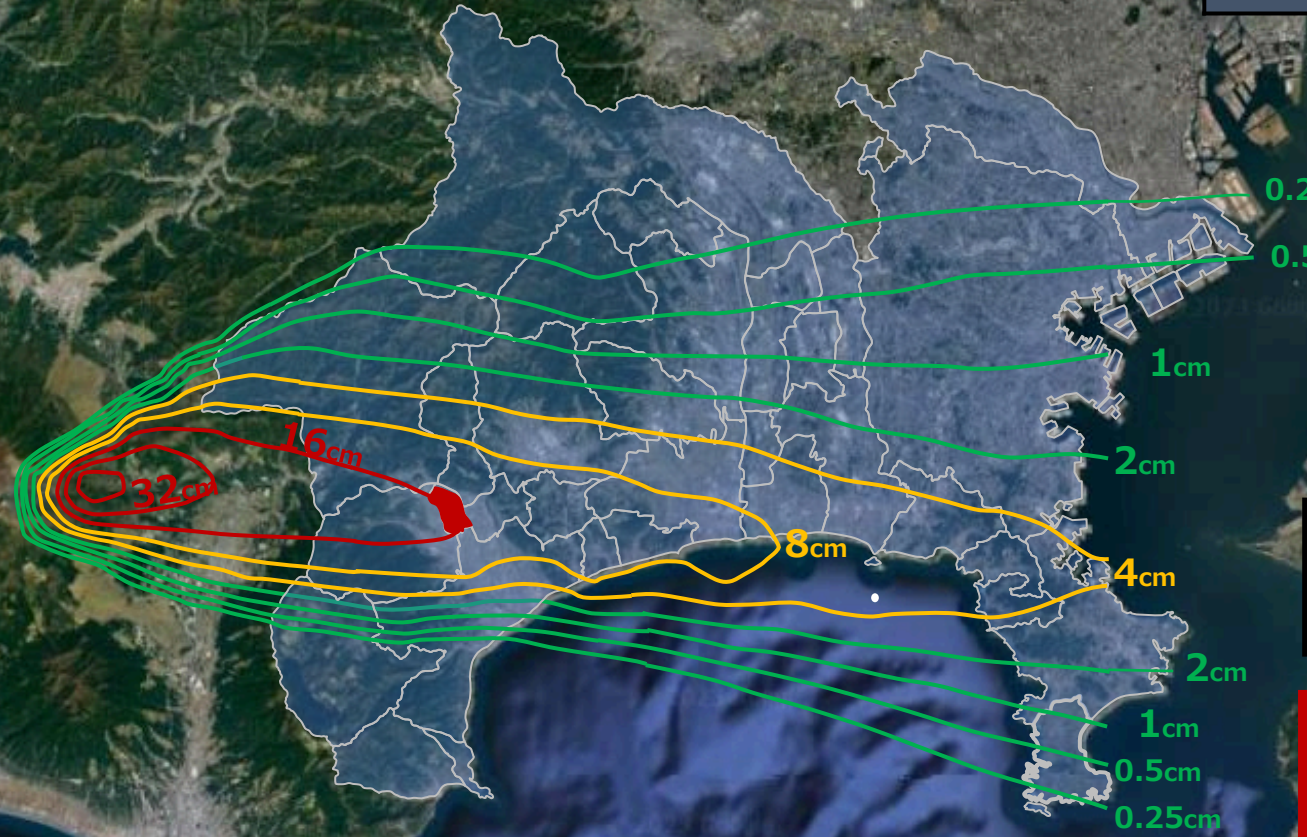
噴火 → 重機・オペレーター待機

道路降灰厚 0.2cm → 除灰開始

降灰量 15cm → 避難準備

降灰量 25cm → 避難指示

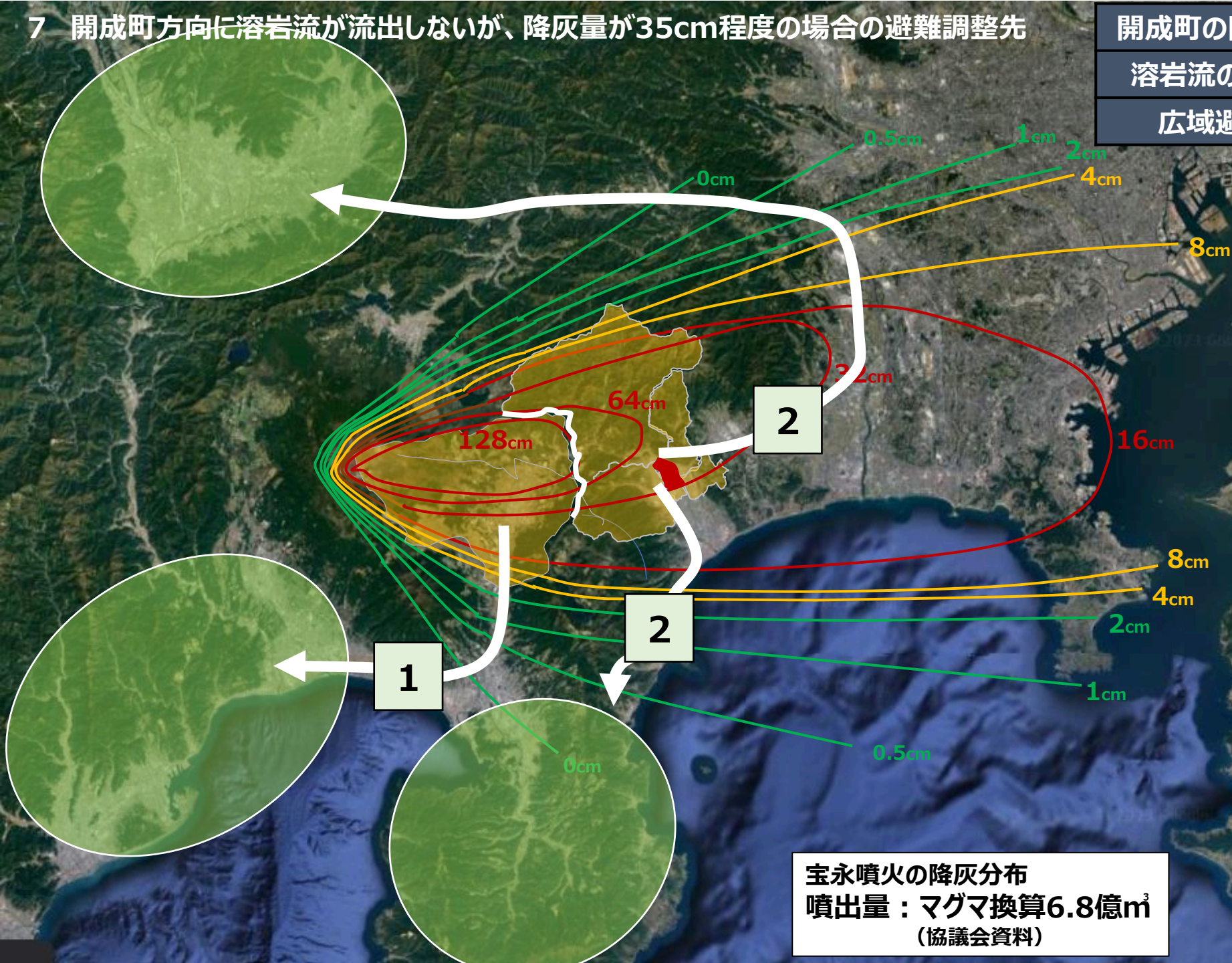
降灰量 30cm → 避難完了



神奈川県平野部直撃に近い1999年12月4日の風によるシミュレーション
噴出量：マグマ換算2億m³ (協議会資料)

7 開成町方向に溶岩流が流出しないが、降灰量が35cm程度の場合の避難調整先

開成町の降灰厚	宝永噴火規模 35cm程度
溶岩流の流出	流出なし
広域避難	県外避難



1 御殿場市・小山町
↓
静岡県中部

2 神奈川県内5市町
↓
国道135号沿いに伊豆地区
または
東名、圏央道、中央道沿いに
甲府盆地

降灰量 15cm → 避難準備

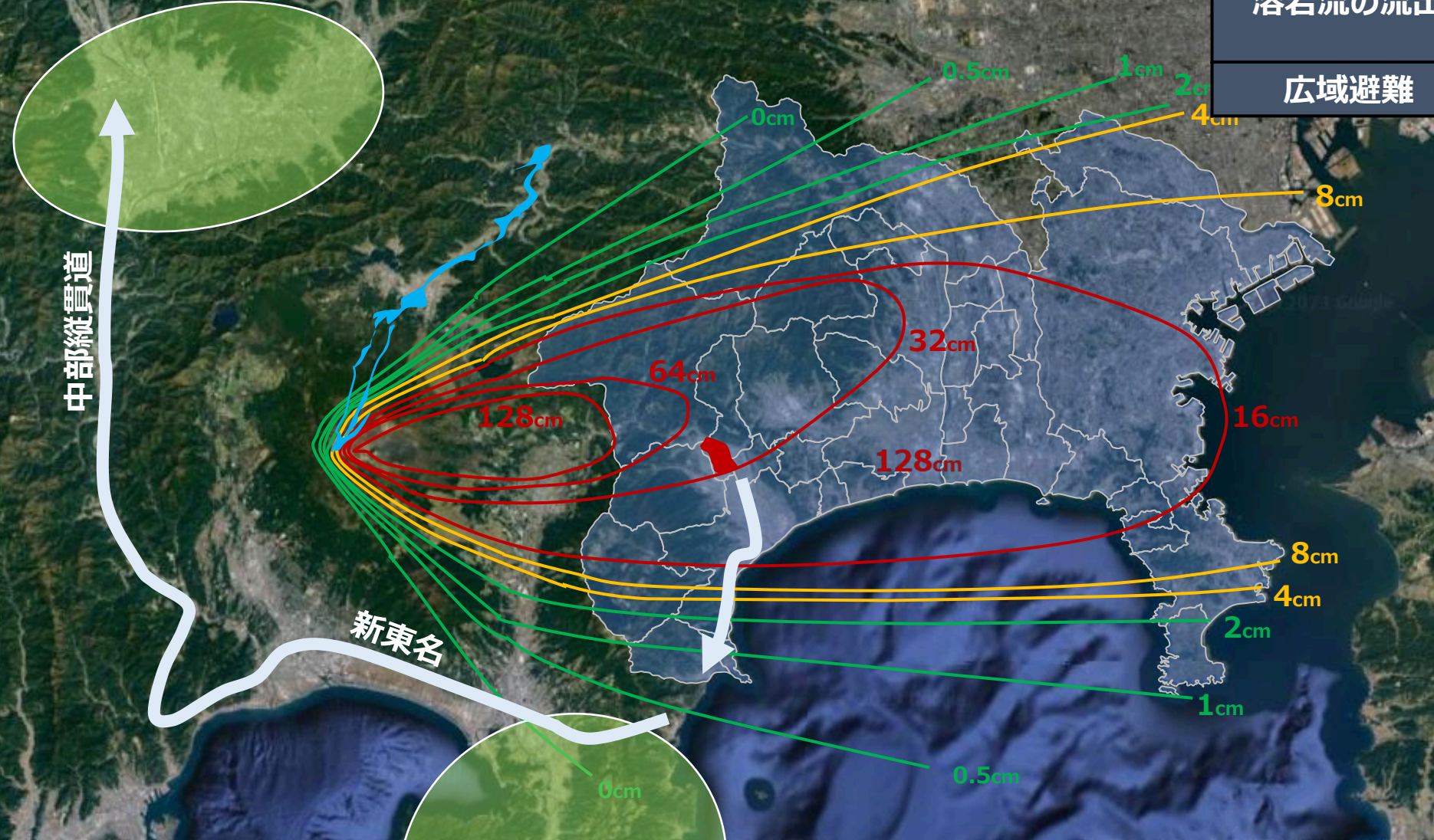
降灰量 25cm → 避難指示

降灰量 30cm → 避難完了

宝永噴火の降灰分布
噴出量：マグマ換算6.8億³m
(協議会資料)

8 開成町方向に溶岩流が流出しないが、降灰量が35cm程度の場合の避難調整先
 (溶岩流が、富士吉田方向に中央道まで流出した場合(可能性含む))

開成町の降灰厚	宝永噴火規模 35cm程度
溶岩流の流出	富士吉田方向に流出 富士吉田市は市内避難
広域避難	県外避難



広域避難調整先
 (協議会・県を通じ)

静岡県伊豆地区

山梨県甲府盆地
 (山梨県の溶岩流被害の状況による)

宝永噴火の降灰分布
 噴出量：マグマ換算6.8億 m^3 (協議会資料)

貞観噴火：13億 m^3
 ハザードマップ大規模溶岩流:13億 m^3

(広域避難者カード 様式)

太枠内を記入し、避難に出発する前に、町の集結地で町職員に提出してください。

広域避難者カード					
受付時間					
受付番号	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 避難前集結地で町職員が記入 記入後、避難者に返却 </div>				
避難人数					
避難先自治体					
避難する施設名	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 避難先集結地で係員が記入、記入後、避難者に返却 </div>				
住所(自治会名)	開成町				(自治会)
避難する者の代表者氏名	性別	年齢	続柄	携帯番号	備考
			本人		
同行者の氏名	性別	年齢	続柄	備考(特別の支援の必要があれば記入してください)	
<div style="border: 2px solid black; padding: 20px; font-size: 2em; font-weight: bold;"> 避難者が記入 </div>					
避難する場所について					
どちらかに○をつけて下さい。			1 町が指定する避難場所に避難する。		
			2 自主避難(実家、親戚等に避難する。)		
「2」の場合、住所、緊急連絡先を記入してください。			住所		
			緊急連絡先		
避難する方法について					
どちらかに○をつけて下さい。			1 「町が用意したバス」で避難する。		
			2 「自家用車」で避難する。		
「2」の場合、台数を記入してください。			台		

※この用紙を、避難先の集結地の受付に提出してください。

別紙10「広域一時避難者 輸送見積り」

避難時期	地区	世帯数 (世帯)	人口 (人)	1世帯人 数 (人)	自主避難者				広域避難者					避難前集結地	避難先集結地	避難施設
					自主 避難者 (人)	自主 避難者 車両数	自主避難者のうち 避難日当日に避難す る者、車両数		広域 避難者 (人)	広域避難者内訳						
							人口の30%	自主避難者数 /世帯人数		避難者数	避難車両数	人口- 自主避難者数	自家用車避難 (人)			
3日目	午前	岡野	53	122	2.30	37	16	10	4	85	68	30	17	1	役場駐車場 瀬戸屋敷駐車場	避難準備段階で 決定
		金井島	272	1104	4.06	331	82	83	21	773	618	152	155	6		
	午後	上延沢	925	2456	2.66	737	278	181	77	1719	1375	518	344	14		
		合計	1250	3682	2.95	1105	375	274	102	2577	2062	700	515	21		
4日目	午前	上島	542	1481	2.73	444	163	111	41	1037	829	304	207	8	役場駐車場 合同庁舎駐車場	
	午後	河原町	190	448	2.36	134	57	24	14	314	251	106	63	3		
	合計	732	1929	2.64	579	220	135	55	1350	1080	410	270	11			
6日目	午前	円中	693	1757	2.54	527	208	131	50	1230	984	388	246	10	役場駐車場 開成駅西口	
	午後	下延沢	528	1306	2.47	392	158	94	37	914	731	296	183	7		
	合計	1221	3063	2.51	919	366	225	87	2144	1715	684	429	17			
8日目		榎本	226	559	2.47	168	68	41	16	391	313	127	78	3		
9日目		中家村	689	1753	2.54	526	207	179	69	1227	982	386	245	10		
10日目	午前	宮台	319	948	2.97	284	96	68	22	664	531	179	133	5	開成駅西口 開成町東口	
	午後	牛島	398	1074	2.70	322	119	78	28	752	601	223	150	6		
	合計	717	2022	2.82	607	215	146	50	1415	1132	402	283	11			
11日目	下島	バレット	466	1102	2.36	331	140	112	47	771	617	261	154	6		
		合計	1868	4159	2.23	1248	560	418	186	2911	2329	1046	582	23		
	12日目	みなみ	502	1476	2.94	443	151	98	37	1033	827	281	207	8		
町合計		7205	18643	2.59	5593	2162	1516	602	13050	10440	4035	2610	104			

防災講演会参加者アンケート（54人）：地震風水害など大規模な自然災害が発生し開成町全域に避難指示が出された場合、町外の家族、親類、知人宅等へ避難できるか。できるとすれば、その場所は？

アンケート実施者の内訳：20代0名、30代3名、40代5名、50代9名、60代17名、70代以上20名 合計54名

アンケート結果 町外への自主避難可能37名（このうち溶岩流被害額実でない地域：21名 地域未記載または溶岩流一部流入自治体の住所不明で確実に被害なしと言えない地域16名） 自主避難先なし：17名

上記から、確実に溶岩流の被害なし自治体へ自主避難できるのは41% 不確定だが自主避難できる可能性ありが69%

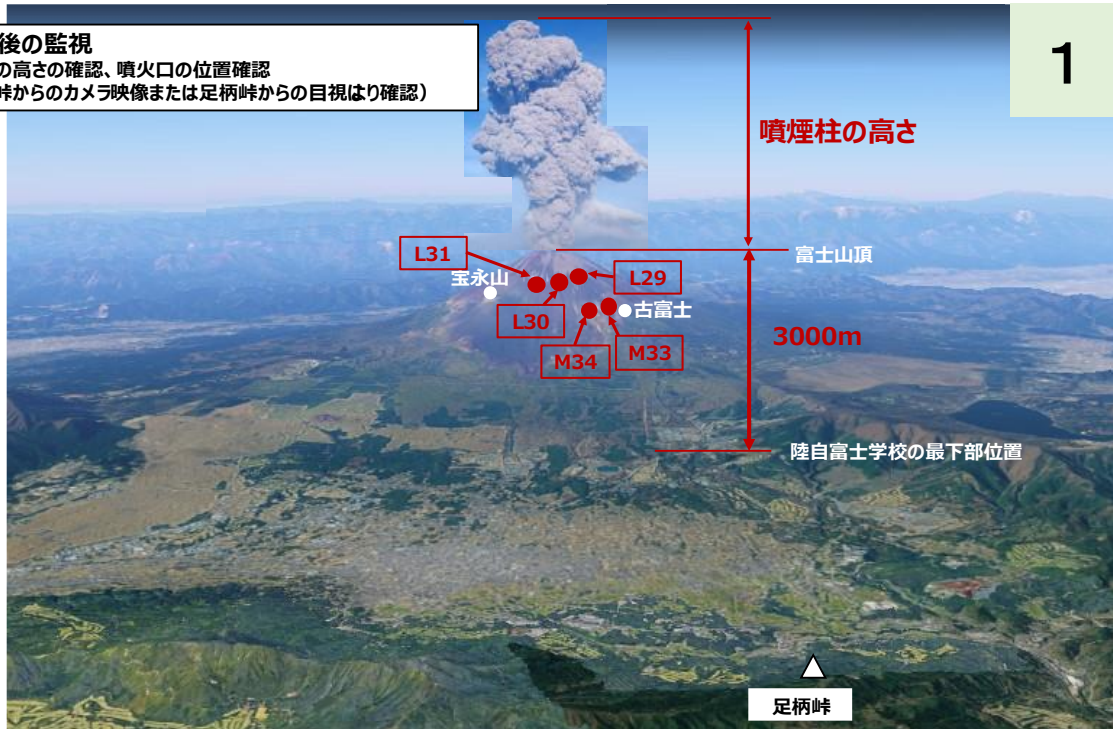
3世帯同居家族が減少し、親、子供の家へ避難できる世帯が増加したと思慮する。（実家、親類、知人宅へ避難できる人数がこれまでの避難計画の予想（15～20%）より多い。）

結論：一部に対するアンケートではあるが、本アンケート結果を考慮し、自主避難者数を町人口の30%として開成町避難計画を立案した。

溶岩流の監視要領 (1)

1

噴火直後の監視
噴煙柱の高さの確認、噴火口の位置確認
(足柄峠からのカメラ映像または足柄峠からの目視より確認)



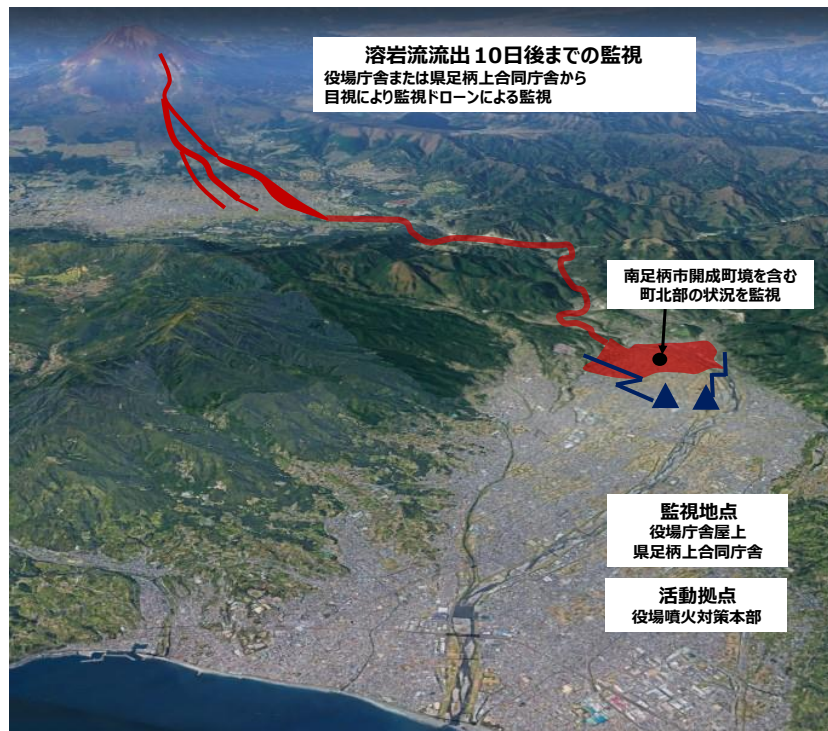
足柄峠から富士山方向の予想噴火口及び監視関連地点



溶岩流の監視要領 (2)

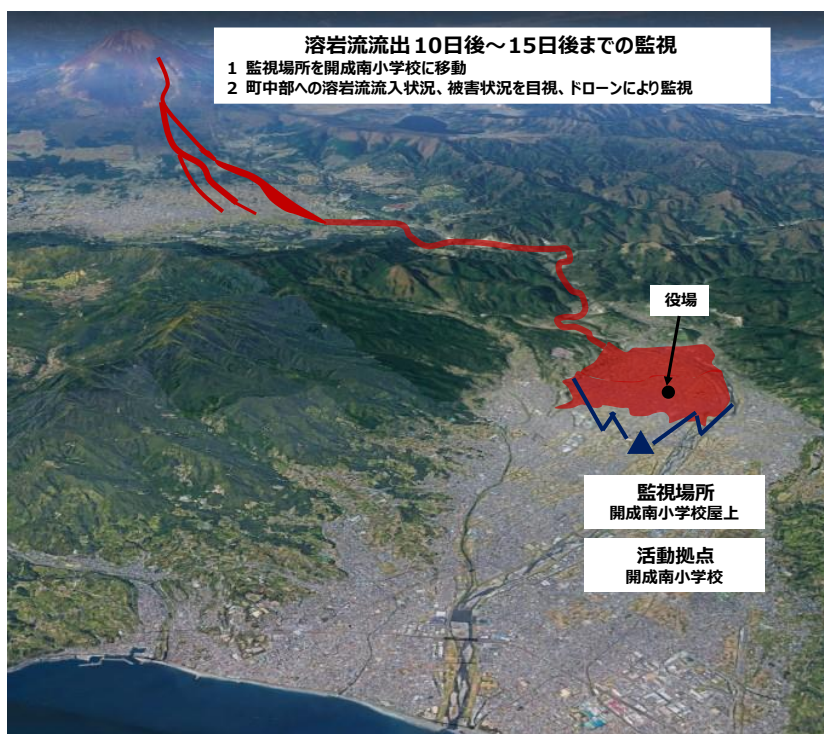
溶岩流流出した場合の監視
 溶岩流の流出方向、流出スピードの確認
 (足柄峠からのカメラ映像または足柄峠か望眼鏡等により確認)

2

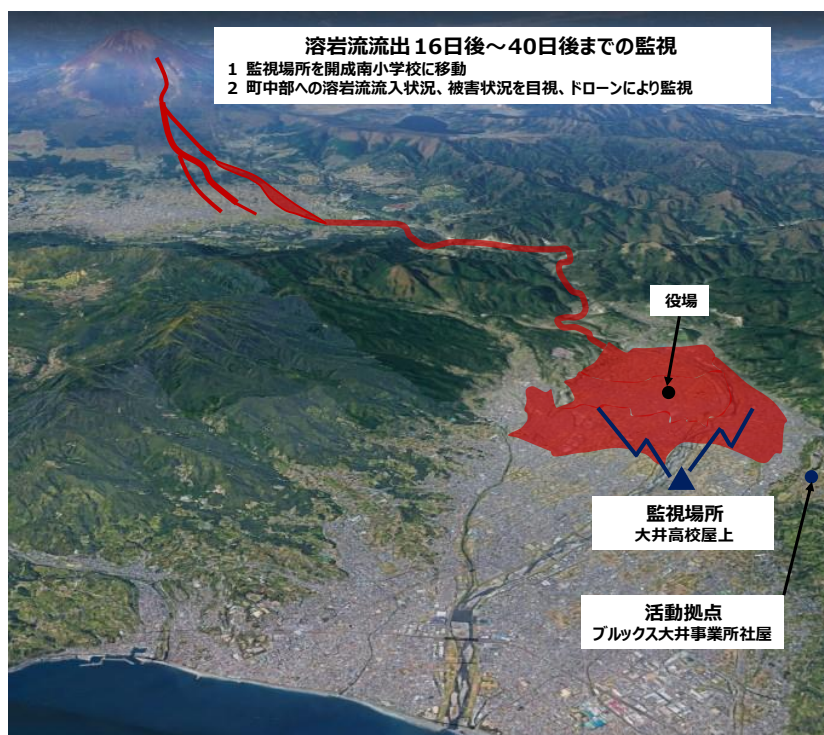


3

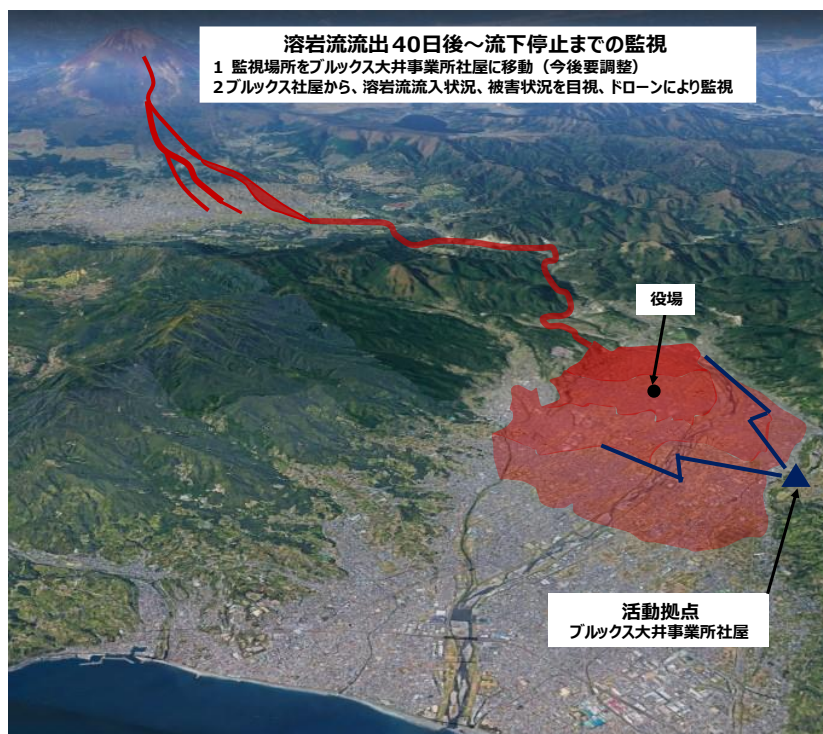
溶岩流の監視要領 (3)



4



5



開成町 富士山噴火避難計画「別紙 1 2」

降灰時の対応

(令和5年5月)

目 次

第1	総論	1
1	目的	1
2	位置付け	1
第2	各種情報	2
1	降灰における各種影響	2
2	降灰予報の種類と内容等	4
3	降灰予報の発表イメージ	6
第3	降灰に対する各種対応	7
1	平時の対応	7
2	ライフライン等の復旧	8
第4	除灰作業	9
1	除灰作業における基本情報等	9
2	降灰に関する平時の準備	12
3	除灰作業車両等の事前準備	14
4	除灰作業の手順	15
5	宅地等の除灰	15
6	火山灰の処分	15
第5	個人の降灰への備え	17
1	噴火前の準備	17
2	降灰前に行っておくこと	17
3	降灰中に行うこと、行わないこと	18
4	火山灰を除去する際の注意	18
5	屋内の清掃	19
6	自動車に関する事項	19

第1 総論

1 目的

火山噴火による溶岩流や火砕流、降灰などの火山現象は、道路交通網の途絶やライフラインの停止など社会経済活動に大きな影響を引き起こす。

特に、降灰は広範囲に飛散し、電力・上下水道及び交通路等に対して多大な影響を及ぼす可能性がある。

本計画においては、降灰による広域避難の実施しない範囲の降灰厚を対象に、これらによる影響を最小限にするための情報伝達体制や道路啓開等の考え方を提示する。

2 本計画の位置付け

本計画は、「開成町富士山噴火避難計画」の別紙とし、広域避難の必要のない場合の降灰の対応について記載し、広域避難等する場合は「開成町富士山火山避難計画」により避難を行う。

第2 基本情報

1 降灰における各種影響

降灰の影響は、他の分野へ波及することで被害が拡大しやすい。特に、交通・電力・水道分野等で発生する被害が他分野に波及すると、日常生活や社会経済活動に波及して大きな影響が生じる。

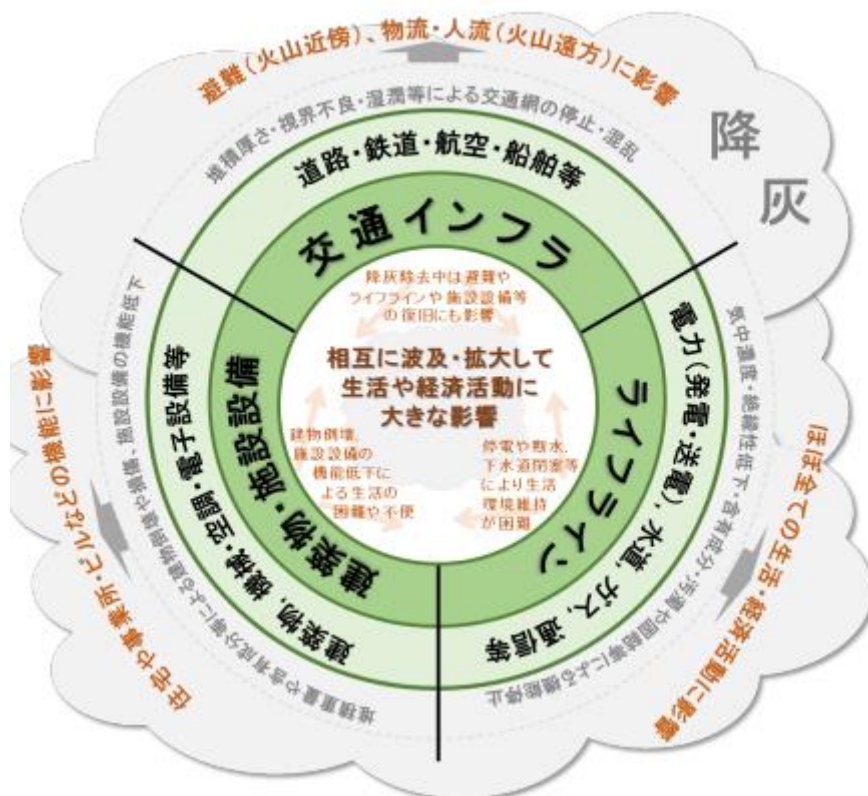


図1 所要なインフラ等における被害や影響の発生要因や相互関係のイメージ
(中央防災会議防災対策実行会議「大規模噴火時の広域降灰対策検討ワーキンググループ」資料 抜粋)

降灰によって生じる各分野への影響としては表1、表2、表3である。

表1 降灰による影響の一覧

		想定される影響	参考となる値	付加条件	
直接被害	資産被害	家屋等被害	荷重による木造家屋の倒壊	降雨時30~45cm 降雨なし45~60cm	
		農業被害	支点間の長い大型建物のたわみ・損壊	積雪荷重を超える降灰の厚さ	耐久力上余裕のない建物
	人的被害	農作物の商品価値の低下	農作物の収穫不能	葉物野菜・果実類等: 微量 その他野菜: 1.5cm以上 稲0.05cm以上	非作付け時期、被覆施設のある農地は除外
		家屋の倒壊・流出による死傷	健康被害(目・鼻・咽頭の異常、呼吸器系疾患の増加)	(定性)	
間接被害	交通支障影響	道路	車線等視認障害による速度低下	0.1cm以上	
			視界不良による通行不能・速度低下	通行不能 視程30m以下 速度低下 視程60m以下	
			火山灰の再移動による視界不良による速度低下	1cm以上	
			タイヤ接地面の摩擦の低下による通行不能・速度低下	2輪駆動車通行不能 降雨時3cm以上、降雨なし10cm以上	
				速度低下 20km/h 降雨なし2cm以上	
			速度低下 10km/h 降雨なし0.5cm以上		
			4輪駆動車通行不能 降雨時10cm以上、降雨なし30cm以上		
			タイヤのスタック・スリップ事故等による滞留車両の発生	(定性)	
			交通量の多い道路での速度低下に伴う渋滞	(定性)	
			鉄道・航空交通の停止による需要の増加	(定性)	
			スリップ等の発生により安全運行が確保できない路線で通行禁止または制限	(定性)	
			緊急交通路として指定された路線で一般車両通行禁止	(定性)	
			道路の低くなっている箇所に火山灰が堆積し通行困難区間拡大	(定性)	降雨時
			小さな噴石降下による車両のガラス破損	(定性)	
	鉄道	車輪、レールの通電不良による車両位置検出・踏切作動不良	0.05cm以上(初回は微量で運行停止)	地上を運行する新幹線、在来線	
		視界不良による通行不能・速度低下	視程50m以下	地上を運行する新幹線、在来線	
		ポイントの作動不良	0.05cm以上	地上を運行する新幹線、在来線	
		レールの埋没	15cm以上	地上を運行する新幹線、在来線	
		停電、電力供給不安定による運行不能	降雨時0.3cm以上等停電時	停電エリアのすべての路線	
		電車の遅延	(定性)		
	ライフライン停止影響	電力	碍子の絶縁低下による停電	降雨時0.3cm以上	
			倒木による送配電線の切断による停電	降雨時10cm以上(幹折れ多数)	
			タービンの摩耗(水力発電所)		
			吸気フィルターの詰まりによる火力発電所の供給力低下	降灰中、6cm以上で停止	
			太陽光発電パネルへの降灰による発電量の減少	0.03cm以上	
			道路の通行不能による復旧現場への到達不能	降雨時3cm以上 降雨なし10cm以上	
			空調設備不具合による機器の動作異常	(定性)	
			燃料不足による火力発電所の停止	(定性)	長期間海上輸送が困難になった場合
			必要な供給力を確保できない場合の停電	(定性)	エリア間の電力融通対策を行っても確保できない場合
			火山灰の侵入によるガスタービン式非常用発電設備不具合	(定性)	
		メンテナンス頻度増によるディーゼル式非常用発電設備出力低下			
		上水道	停電による運転停止	降雨時0.3cm以上等停電時	予備電源の燃料が枯渇した場合
			下水道管等排水施設の閉塞	(定性)	降雨時・水を使用した清掃が増加した場合
		下水道	下水処理場の処理能力低下、ポンプ場の機能不全	(定性)	
	停電による運転停止		降雨時0.3cm以上で停電	予備電源の燃料が枯渇した場合	
	下水管路(雨水)の閉塞により閉塞上流から雨水の溢れ		(定性)	降雨時	
	通信	薬剤等の不足による下水処理施設の機能低下	(定性)	道路の通行不能が継続した場合	
		アンテナへの火山灰付着による通信不調	(定性)	降雨時	
		利用者の増加による輻輳	(定性)		
		停電による運転停止	降雨時0.3cm以上で停電	予備電源の燃料が枯渇した場合	
	波及被害	生活への波及	空調設備の不具合による機器の動作異常	(定性)	
			火山灰の侵入による電子機器の不調	(定性)	
買占め等による食料飲料の店舗在庫の売切れ			0.1cm以上(道路輸送力低下)		
交通支障による物資の入手困難			降雨時3cm以上 降雨なし10cm以上		
医療・福祉施設の機能低下			交通ライフラインの支障地域		
経済への波及		交通支障による大量の滞留者発生	微量	交通機関に影響がある場合	
		空調設備の不具合	5cm以上		
		家電製品・情報機器の不具合	(定性)	屋外使用時	
		人員確保不能、営業停止、事業の縮小	交通ライフラインの支障地域		
		サプライチェーンの寸断に伴う操業停止	交通ライフラインの支障地域		
精神的被害	応急対策費用の発生	(定性)			
	火山灰の影響による精神的打撃	(定性)			
その他	処分火山灰の発生	火山灰の仮置き場、処分場の不足	(定性)		

表2 開成町 降灰による主な影響

		開成町：降灰による主な影響								
		火山灰の堆積厚						※：「雨☔」は矢印方向に雨の影響が大きくなる。		
		微量	0.3cm~	3cm~	10cm~	30cm~	45cm~			
交通	道路	鉄道停止による道路交通量の激増	路面0.3cm:スリップ速度低下による渋滞	3~10cm:2輪駆動車走行困難	10~30cm:4輪駆動車走行困難	30cm~:降灰量増加に伴い緊急車両の通行困難	45cm~:雨☔	視界不良、スリップで安全運行不能 速度低下、渋滞の発生	道路機能麻痺	
	鉄道	降灰降り始めから短時間で運行に影響					大部分で運行停止	雨☔	信号、踏切の作動不良、システム不良 輸送力の低下	運行停止
人的・物的影響	人的被害	0.01cm:喘息患者症状悪化 緊急自動車運行支障 通院に支障	喉、鼻、目の異常訴え 1cm:髪根除灰時の乾落事故増加					健康被害の発生	健康被害	
	人の移動	鉄道・車両による出動、移動困難	道路0.3cm:道路渋滞 車両移動に支障	道路3cm~10cm:移動手段は徒歩に限定	降雨時歩行注意(滑りやすい)		雨☔	通行制限、渋滞の発生：道路交通に支障 移動手段が限定される。(徒歩のみ)	移動に支障	
	物資	燃料・食料等買占めによる在庫の品薄	物流機能の低下 店舗商品在庫切れ	道路3cm~10cm:2輪駆動車走行困難-配送困難	物流機能停滞 生活物資入手困難		雨☔	生活物品の品切れ、在庫不足 交通網の途絶で物流機能の低下により 生活用品の入手困難	生活物資不足	
建物	木造住宅						30~40cm以上で木造家屋倒壊リスク	雨☔	30cmで家屋倒壊の可能性大 ：雨でリスク増加	家屋倒壊
	長入川建物(体育館)						10cm以上の堆積厚で、一定の荷重以上(積雪2cm分)が加わると倒壊の危険性：避難所としての使用不可	雨☔影響大	積雪荷重を超える降灰重量により 倒壊の可能性大	建物倒壊
ライフライン	電力	堆積厚0.03cm太陽光発電：発電量低下	0.3cm以上の降灰+雨： 碍子絶縁低下で停電の可能性	堆積厚6cm火力発電：発電量低下	10cm以上の降灰+雨： 倒木で電線切断：停電		雨☔	鉄塔、送電線、電柱等の被害 により停電発生 交通障害により、復旧時期の遅れ	停電	
	通信	噴火直後 大量アクセス つながりにくい	堆積厚10cm携帯基地局空調不具合、基地機能低下		0.3cm以上の降灰+雨：携帯基地局アンテナ被害により通信障害			雨☔	基地局機能の低下による通信制限の発生	スマホ使用困難
	上水道	開成町：水質に影響なし	停電による断水の可能性					雨☔	施設停電による断水の発生	停電による断水
	下水道	下水管が火山灰による詰まり発生 停電、設備燃料切れによる使用制限						雨☔	停電、設備燃料不足による 使用制限の発生	状況により使用不能

中央防災会議防災対策実行会議「大規模噴火時の広域降灰対策検討ワーキンググループ」資料 引用

富士山火山防災対策協議会「富士山火山避難基本計画」資料 引用

2 降灰予報の種類と内容等

降灰予報の種類と内容等は表3のとおりである。

表3 降灰予報の種類と内容

	発表する場合	発表の時期	提供内容
降灰予報 (定時)	噴火警報発表中の火山で、噴火により生活に影響を及ぼす降灰が予想される場合	定期的 (3時間毎)	18時間先(3時間区切り)までに噴火した場合に予想される 「降灰範囲」 「小さな噴石の落下範囲」
降灰予報 (速報)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 噴火発表を通報する「噴火に関する火山観測報」を受けて発表 ・ 降灰予報(定時)発表中の火山：降灰への防災対応が必要となる降灰量階級が「やや多量」以上の降灰が予想された場合に発表 ・ 降灰予報(定時)未発表の火山：噴火に伴う降灰域を速やかに伝えるため予測された降灰量が「少量」であっても必要に応じ発表 	噴火後 速やかに (5～10分程度)	噴火発生から1時間以内に予想される 「降灰量分布」 「小さな噴石の落下範囲」
噴火予報 (詳細)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 噴火観測情報(噴火時刻、噴煙高等)を用いて高精度の降灰予測計算を行って発表 ・ 降灰予報(定時)発表中の火山：降灰への防災対応が必要となる降灰量階級が「やや多量」以上の降灰が予想された場合に発表 ・ 降灰予報(定時)未発表の火山：噴火に伴う降灰域を速やかに伝えるため予測された降灰量が「少量」であっても必要に応じ発表 ・ 降灰予報(速報)を発表した場合：降灰予報(詳細)も発表 	噴火後 20分～30分程度	噴火発生から6時間先まで (1時間毎)に発表される 「降灰量分布」 「降灰開始時期」

なお降灰予報で発表される降灰量の階級と降灰の厚さについては、表4「降灰予報で使用する降灰量階級表」による。

表4 降灰予報で使用する降灰量階級表

名称	表現例		「影響」及び「とるべき行動」		その他の影響	
	厚さ キーワード	イメージ		人		道路
		路面	視界			
多量	1mm 以上 【外出を控える】	完全に覆われる 	視界不良 	外出を控える 慢性の喘息や慢性閉塞性肺疾患（肺気腫等）が悪化し健康な者でも目、鼻、のど、呼吸器などの異常を訴える者が発生	運転を控える 降ってくる火山灰や積もった火山灰をまきあげて視界不良となり通行規制や速度制限等の影響が生じる。	碓子への火山灰付着による停電発生や上水道の水質低下及び給水停止のおそれがある。
やや多量	0.1mm ≤ 厚さ ≤ 1mm 【注意】	白線が見えにくい 	明らかに降っている 	マスク等で防護 喘息患者や呼吸器疾患を持つ者は症状悪化のおそれあり。	徐行運転する 短時間で強く降る場合は視界不良のおそれ 道路の白線が見えなくなるおそれ（およそ0.1～0.2mmで鹿児島市降灰開始）	稲等農作物が収穫できないおそれ 鉄道ポイント故障による運転見合わせのおそれ
少量	0.1mm未満	うっすら積もる 	降っているのが ようやくわかる	窓を閉める 火山灰が衣服や身体に付着する。 目に入ったときは痛みを伴う。	フロントガラスの除灰 火山灰がフロントガラスに付着し、視界不良の原因となるおそれあり。	航空機の運行不可

3 降灰予報の発表イメージ

気象庁からの降灰予報が発表されるイメージは次のとおりである。



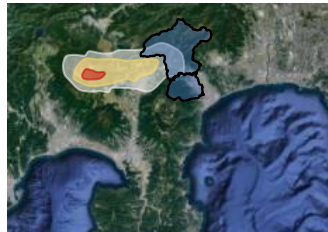
①降灰予報（定時）

噴火の可能性が高い火山に対して、想定した噴煙高を用いて、18時間先までの噴火が発生した場合の**降灰範囲**、**小さい噴石の落下範囲**を計算し、**定期的**に発表



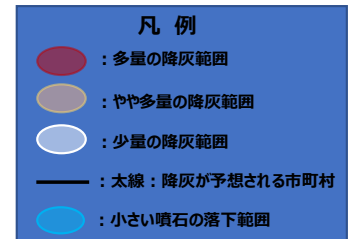
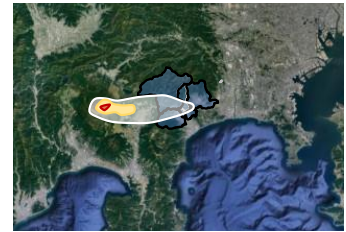
②降灰予報（速報）

噴火発生直後、事前に計算した想定噴火のうち最も適当なものを抽出し、1時間以内の**降灰量分布**、**小さな噴石の落下範囲**を噴火後5~10分程度で**速やか**に発表



③降灰予報（詳細）

噴火発生後、観測した噴煙高を用いて精度良好な**降灰量分布**、**降灰開始時刻**を計算し、6時間先までの**詳細**な予報を、噴火後20~30分程度で発表



第3 降灰に対する各種対応

1 平時の対応

(1) 町の事前調整

火山噴火により降灰が確認された場合、町は、住民や関係機関に対して迅速に情報提供を行うとともに、必要な対策を実行に移す必要があるため、平時から次の事項について事前の調整を行う。

- 富士山ハザードマップに基づき、降灰の影響範囲を確認しておく。
- 気象庁、県と密接に連携し、降灰時における各種情報の伝達方法を確認しておく。
- 国、県への応援要請手順やライフライン関係機関、物資協定に係る協定先との連絡方法の確認等、降灰時に必要な事項について確認・整理しておく。
- 電力途絶による影響が生じる医療機関等に対し、降灰による停電の可能性を周知し、対策の検討を促す。

(2) 健康被害対策（住民等に事前周知する事項）

降灰の物理的影響により直ちに人的被害が発生する可能性は低いが、広範囲での降灰状況下では、車両移動が制限され、併せて停電等のライフラインに影響があり、日常生活や社会経済活動に影響を及ぼす。

このため平時から住民に対し下記の事項について周知させる。

- 降灰に備えた備蓄品について、地震・水害等の備蓄品に加えて、
 - ・防塵マスク、防護メガネ（ゴーグル）・ラップ（電化製品の火山灰防護のため）
 - ・清掃用具（ほうき、掃除機及びその交換用ゴミ袋、ショベル（スコップ））
- 降灰によるスタック車両は大規模な渋滞を引き起こし、除灰作業の円滑化に影響を及ぼすため、降灰が確認された場合は不必要な車両移動をしない。
- 降灰時やむをえず外出するときは、ヘルメット、マスク、ゴーグル等を着用すること。
- 火山灰によっては、喘息等の呼吸器系の症状に悪影響を与えること、目の炎症を引き起こすこと等、健康影響があること。

避難、外出時の住民に対する周知事項は次のとおりである。

住民への避難、外出時の周知事項

- 火山灰を吸い込まない。マスクを着用する。
- 目を守る。
 - コンタクトレンズの使用を避け、メガネにする。
 - 防塵ゴーグルや傘、帽子、ヘルメット等を着用
 - 灰が目に入った場合、こすらず水で洗い流す。
- 皮膚を守る。
 - 長袖、長ズボン、手袋、タオル等で皮膚を覆う。
- 交通事故に注意
 - 降灰により見通し悪化、路面標示が見えなくなる。
 - やむを得ず車両を運転する場合、点灯する。徒歩の場合、懐中電灯を点灯する。

出典：新潟焼山の噴火活動活発化した場合の避難計画

2 ライフライン等の応急・復旧対策

(1) 電気

東京電力パワーグリッド（株）の非常災害対策活動の要領は次のとおりである。

ア 非常災害時における電力設備の運転

(ア) 非常災害が発生した場合においても、電力供給は可能な限り継続する。

(イ) 電力供給の継続が危険であると認められる場合は、その旨を関係機関に連絡するとともに運転停止など必要な措置を講じる。ただし緊急やむを得ない場合は、必要な措置を講じたのち、関係機関等へ速やかに連絡する。

イ 非常災害時の情報の収集・連絡

(ア) 情報の収集

非常災害対策本部・支部は、それぞれの機能に基づき情報を迅速・的確に収集し、災害情報を集約し災害情報システムへ登録する。

(イ) 情報の集約

各非常災害対策本部は、災害情報システムにより集計された被害状況を把握する。

ウ 被害の復旧

(ア) 復旧計画の作成

非常災害対策本部・支部は電力系統の全体的な復旧方法と各設備の復旧方法、仮復旧を含めた工程、復旧資機材の調達、応援の必要の有無、復旧作業隊の配置等復旧計画を作成する。

(イ) 復旧順位

原則として人命に関わる箇所、官公庁、報道機関、避難場所等を優先する。

エ 広報活動

(ア) 住民等への広報

非常事態が発生した場合、必要に応じ広報車等により感電事故、電気火災等の防止に関する広報を行う。独自で広報活動ができない場合、市町村に広報の協力を依頼する。

(イ) 広報活動を通じた広報

広範囲にわたる停電活動が発生した場合は、報道機関を通じて電力施設の被害状況、復旧見込み、感電事故、電気火災等の防止等について迅速・適切に広報を行う。

(2) 上水道

降灰による停電に伴う施設の稼働停止等の際、水道水の供給を維持させるため必要な措置を講ずる。

ア 降灰に伴う停電対策

停電時においても、浄水施設、ポンプ場等の運転継続に努めるとともに非常用電源稼働のための燃料確保に努める。

イ 除灰作業に必要な水の確保

宅地等の除灰作業等に伴い、火山灰が舞い上がらないようにするため水が必要になることが予想されるため、道路等の除灰作業にあたっては、可能な限りで河川、用水路の水等の活用に努める。

ウ 広報活動

災害対策本部と連携しながら、被害、復旧の状況等を適時適切に広報し町民の混乱防止に努める。

(3) 下水道

降灰時における汚水、雨水の疎通に支障のないよう必要な措置を講じる。この際、降灰の流入による施設の機能低下を防止するため、火山灰を下水管に流さないよう広報を行う。

第4 除灰作業

降灰における道路交通への影響については、車線等の視認障害、視覚不良、タイヤ設置面の摩の低下による通行支障が予想される。

また、タイヤのスタック、スリップ事故の発生により、滞留車両が発生する可能性があり、通行量の多い道路では、速度低下に伴い渋滞が発生する可能性もある。

これらによっては、避難車両や緊急通行車両の移動が妨げられ、富士山火山対策協議会、県、町が実施する避難対策が円滑に実施されないといった影響が想定される。

ここでは、降灰が確認された際の除灰に関する基本的な考え方を整理し、実際においては、降灰時の町の状況に応じて基本的な考え方を基に対応する。

1 除灰作業における基本情報等

(1) 対象とする降灰厚

降灰時の車両走行では、火山灰の巻き上げやタイヤのすべり摩擦係数の低下による走行速度の低下、走行抵抗の増加による通行不能などが引き起こされる。

これら、道路交通への影響が生ずる降灰厚の目安については、下記のとおりである。

- | |
|---------------------------------------|
| ●通行不能区間：道路降灰厚が10cm以上（降雨時3cm以上） |
| ●速度低下区間：道路降灰厚が5cm～10cm未満 ➡ 走行速度10km/h |
| 道路降灰厚が2cm～5cm未満 ➡ 走行速度20km/h |
| 道路降灰厚が0.1cm～2cm未満 ➡ 走行速度30km/h |
| (降灰厚毎の制限速度ではない) |

【参考】内閣府防災「大規模降灰ワーキンググループ」

降灰厚30cm以上では、家屋倒壊の可能性が高まるため速やかな避難が必要である。このため降灰対応のための町の対処基準を、開成町富士山火山避難計画 第3編第4章「降灰時の対応」第1節 表35とし対処する。

開成町富士山避難計画 第3編 第4章 第1節 表35より

降灰対応のための町の対処基準

(町の被害が大きいと見積られる宝永噴火に近いケース(西風)を想定)

レベル3	除灰器材(重機)オペレーターの調整開始 (県を通じ国に対し) ※1
噴火	重機・オペレーター待機依頼 (県を通じ国に対し)
道路の降灰量 0.2mm (道路白線が見えにくい)	除灰開始:細部「別紙12」による。
降灰厚確認地点 ※2 15cm	避難準備
降灰厚確認地点 25cm	避難指示
降灰厚確認地点 30cm	避難完了

※1 関東地域で同時に1000台1000人の重機・オペレーター同時確保可能

「大規模噴火時の広域降灰対策の検討の前提とする輸送手段の可能性」

(令和2年4月大規模噴火時の広域降灰対策ワーキンググループ)

※2 避難のための降灰厚確認地点は役場北側駐車場とする

(2) 想定される除灰作業車両等

除灰作業において使用する除灰作業車両等は、路面清掃車、散水車、ホイールローダー、バックホウとする。

これらの除灰作業車両は、下記のとおり降灰厚によって組み合わせて活用する。

降灰厚	使用作業車両
～1 c m	路面清掃車＋散水車
1～50 c m	ホイールローダー＋路面清掃車＋散水車
50 c m以上	油圧ショベル(バックホウ)＋ホイールローダー＋路面清掃車＋散水車

※2011年霧島山（新燃岳）噴火の際、降灰厚1 c mを超える地域では路面清掃車による作業ができずホイールローダー等が使用された。



路面清掃車



散水車



ホイールローダー



油圧ショベル（バックホウ）

(3) 降灰に係る作業時間

【参考資料】 除灰車両等を用いた除灰に係る作業時間（鹿児島市資料）

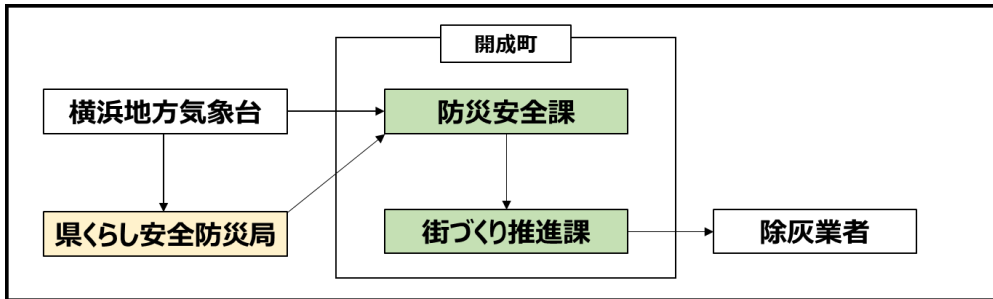
作業車両	降灰厚 (m)	道路10m当たり 作業時間	道路100m当たり 作業時間
ホイールローダー（バケット1.3 m ³ ）	0～0.3	3分	30分
油圧ショベル（バックホウ0.7 m ³ ）	0～0.3	4分	40分
油圧ショベル（バックホウ0.4 m ³ ）	0～0.3	5分	50分

※作業車両1台で除灰作業を実施した場合の作業時間

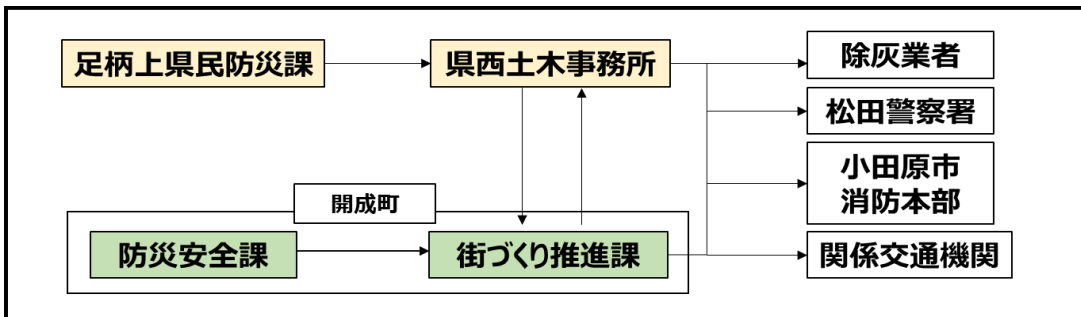
2 除灰に関する平時の準備

(1) 情報伝達順序の設定

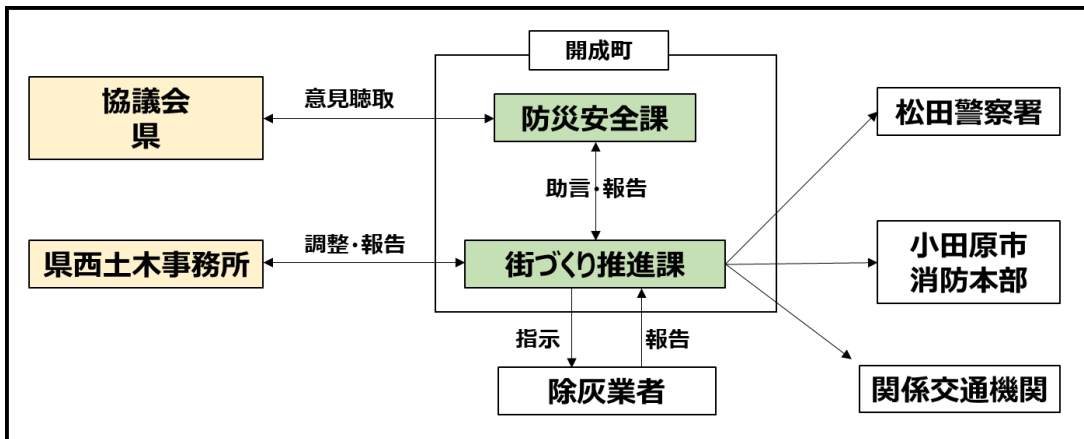
ア 降灰予報伝達順序



イ 除灰作業待機、除灰作業開始伝達順序



ウ 県道及び町道の除灰作業時の情報伝達網



(2) 降灰厚確認地点

実際の降灰厚を確認するため、次の地点に降灰厚確認地点を設ける。確認の方法は目視とし、降灰後、逐次巡回して確認する。



(3) 除灰を行う路線の優先順位



町の除灰優先道路のうち、最優先する道路は避難に必要な道路とし、溶岩流流入の場合、北部道路から優先して除灰する。ただし、優先度にかかわらず、人命に関わる緊急対応やライフライン途絶等への対応事には、各機関からの要請に応じ柔軟に除灰作業を実施する。

3 除灰作業車両等の事前調整

町単独で除灰が困難と予想される場合は、都道府県、都道府県を通じ他の都道府県への応援要請や国土交通省TEC-FORCE等への支援要請を行い除灰作業車両等の速やかな確保に努める。

4 除灰作業の手順

除灰作業の手順については、付紙「除灰作業手順」のとおりである。

除灰作業手順は、噴火規模や噴火の時間推移によって作業の開始時期、頻度等の対応により異なる。「付紙」記載事項は、状況により内容と異なる対応が必要となる場合もある。

5 宅地等の除灰

宅地等における降灰の除去、障害の軽減については、原則として、それぞれを所有、管理等を行う者が実施する。

(1) 宅地等

ア 宅地等の除灰は、住民自らその除去を行い、除去した降灰は、町が指定する「宅地内降灰指定場所」に集積し、収集請負業者等がこれを収集する。

イ 除灰作業に当たっては、道路の側溝等の詰まりを防ぐため、火山灰を側溝等に流さないよう留意する。

(2) 農作物（野菜、花木、果樹）

作物、ビニール、ビニールハウス上の灰を落とす。出荷する際は、収穫物の洗浄を行う。

6 火山灰の処分

(1) 基本的な考え方

広域避難路等の除灰作業で収集した火山灰は、「火山灰の処分手順」に示す手順により処分を行う。

火山灰の処分手順



出典：大規模火山災害対策への提言 【参考資料】（平成25年5月）

事前に「火山灰仮置き場」を定めるとともに、「火山灰処分場」については、町域で処分することは困難であり県等と調整する。

(3) 火山灰仮置き場

火山灰仮置き場は、広域避難路等で収集した火山灰を一時的に集積する場所であり、仮置き期間は1～3か月程度を想定する。（図1）

仮置き場となる用地の主な要件

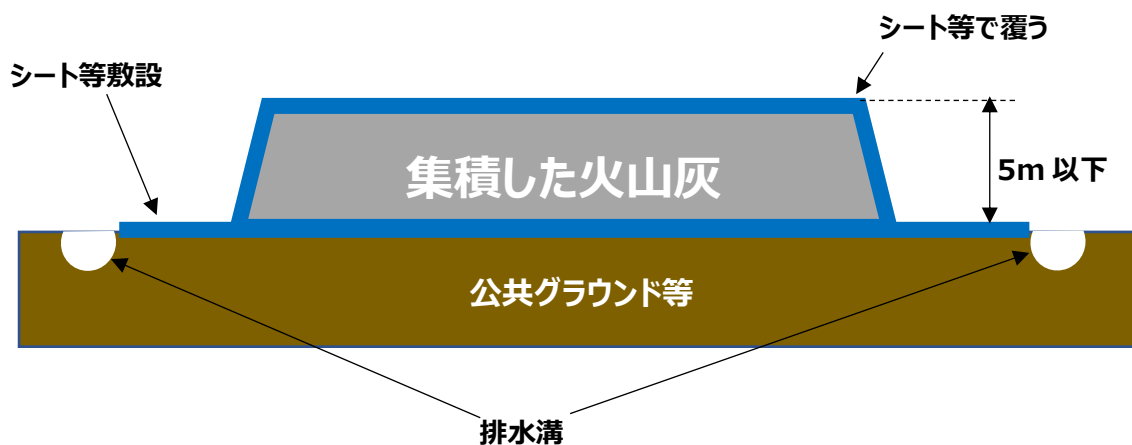
- ・平坦な場所（火山灰の移動、流出を防止）
- ・河川、水路から一定程度離れた場所（下流域への流出を防止）
- ・ダンプトラックの往来が可能な場所（処分場への運搬が容易）

- ・ 公有地、公共施設
例：大型駐車場、公園、公共グラウンド、遊休地 等

留意事項

- ・ 用地の現状復旧や処分場への運搬が容易となる工夫（シート等の敷設）
- ・ 風による飛散の防止（シート等で覆う）
- ・ 降雨による流出防止（排水溝の設置）
- ・ 火山灰盛土の崩壊防止（盛土高 5 m 以内）

図1 火山灰仮置き場での保管例



出典：大規模火山災害対策への提言【参考資料】（平成 25 年 5 月）

町内の火山灰仮置き場については、今後検討する。

第5 個人の降灰への備え

富士山噴火の恐れが発生し、火山灰が降るという予報が出された時に準備すべき事項、注意すべき事項、また降灰中にすべき事項、降灰後に火山灰を清掃する際の注意事項については次のとおりである。

1 噴火前の準備

噴火前



2 降灰前に行っておくこと

警戒レベル3 降灰前



3 降灰中に行うこと、行わないこと

降灰中



降灰中に行うこと、行わないこと

- ・ 火山灰が降り始める前に職場・学校等から帰宅
- ・ 降灰中は、屋内に留まる。
- ・ 屋外で降灰が発生した場合、避難施設を探し避難する。
この際マスクやハンカチまたは衣服で鼻と口を覆う。
- ・ 屋外から屋内へ入る場合、入り口でしっかりと除灰する。
(着用していた衣類はビニール袋に入れる等、室内に直接持ち込まない。)
- ・ 角膜剥離防止のため、コンタクトレンズは着用しない。
- ・ 家庭菜園の野菜を食べてもかまわないが、よく洗って調理する。

4 火山灰を除去する際の注意

降灰後or 降灰休止時 (屋外)

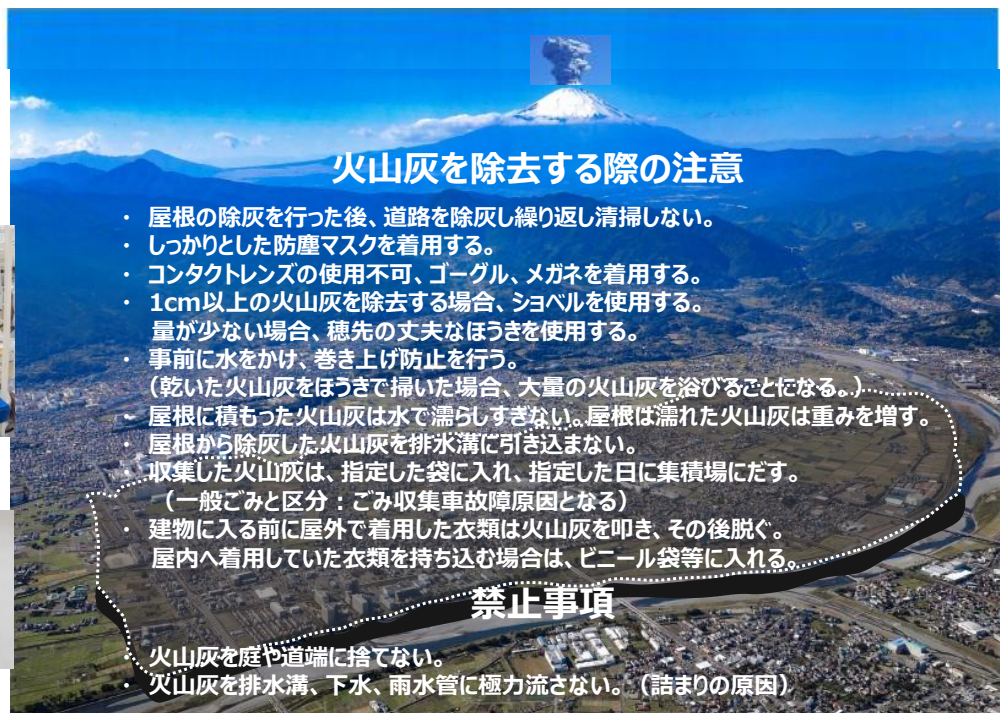
除去資材



マジカル・スイパー
(一般のほうきより
毛が詰まっている)



灰かき棒
(灰が多めに積もった場合)



火山灰を除去する際の注意

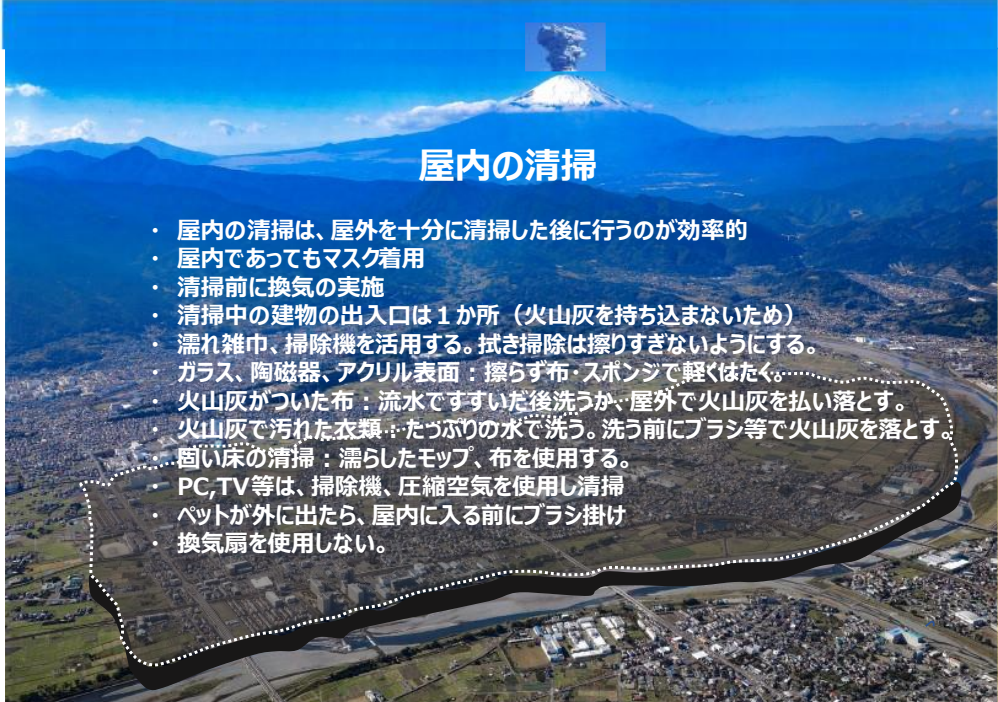
- ・ 屋根の除灰を行った後、道路を除灰し繰り返し清掃しない。
- ・ しっかりとした防塵マスクを着用する。
- ・ コンタクトレンズの使用不可、ゴーグル、メガネを着用する。
- ・ 1cm以上の火山灰を除去する場合、シヨベルを使用する。
量が少ない場合、穂先の丈夫なほうきを使用する。
- ・ 事前に水をかけ、巻き上げ防止を行う。
(乾いた火山灰をほうきで掃いた場合、大量の火山灰を浴びることになる。)
- ・ 屋根に積もった火山灰は水で濡らしすぎない。屋根は濡れた火山灰は重みを増す。
- ・ 屋根から除灰した火山灰を排水溝に引き込まない。
- ・ 収集した火山灰は、指定した袋に入れ、指定した日に集積場にだす。
(一般ごみと区分：ごみ収集車故障原因となる)
- ・ 建物に入る前に屋外で着用した衣類は火山灰を叩き、その後脱ぐ。
屋内へ着用していた衣類を持ち込む場合は、ビニール袋等に入れる。

禁止事項

- ・ 火山灰を庭や道端に捨てない。
- ・ 火山灰を排水溝、下水、雨水管に極力流さない。(詰まりの原因)

5 屋内の清掃

降灰後or 降灰休止時 (屋内)



屋内の清掃

- ・ 屋内の清掃は、屋外を十分に清掃した後に行うのが効率的
- ・ 屋内であってもマスク着用
- ・ 清掃前に換気の実施
- ・ 清掃中の建物の出入口は1か所（火山灰を持ち込まないため）
- ・ 濡れ雑巾、掃除機を活用する。拭き掃除は擦りすぎないようにする。
- ・ ガラス、陶磁器、アクリル表面：擦らず布・スポンジで軽くはたく。
- ・ 火山灰がついた布：流水ですすいだ後洗うか、屋外で火山灰を払い落とす。
- ・ 火山灰で汚れた衣類：たっぷりの水で洗う。洗う前にブラシ等で火山灰を落とす。
- ・ 固い床の清掃：濡らしたモップ、布を使用する。
- ・ PC、TV等は、掃除機、圧縮空気を使用し清掃
- ・ ペットが外に出たら、屋内に入る前にブラシ掛け
- ・ 換気扇を使用しない。

6 自動車に関する事項

降灰後or 降灰休止時 (車両)



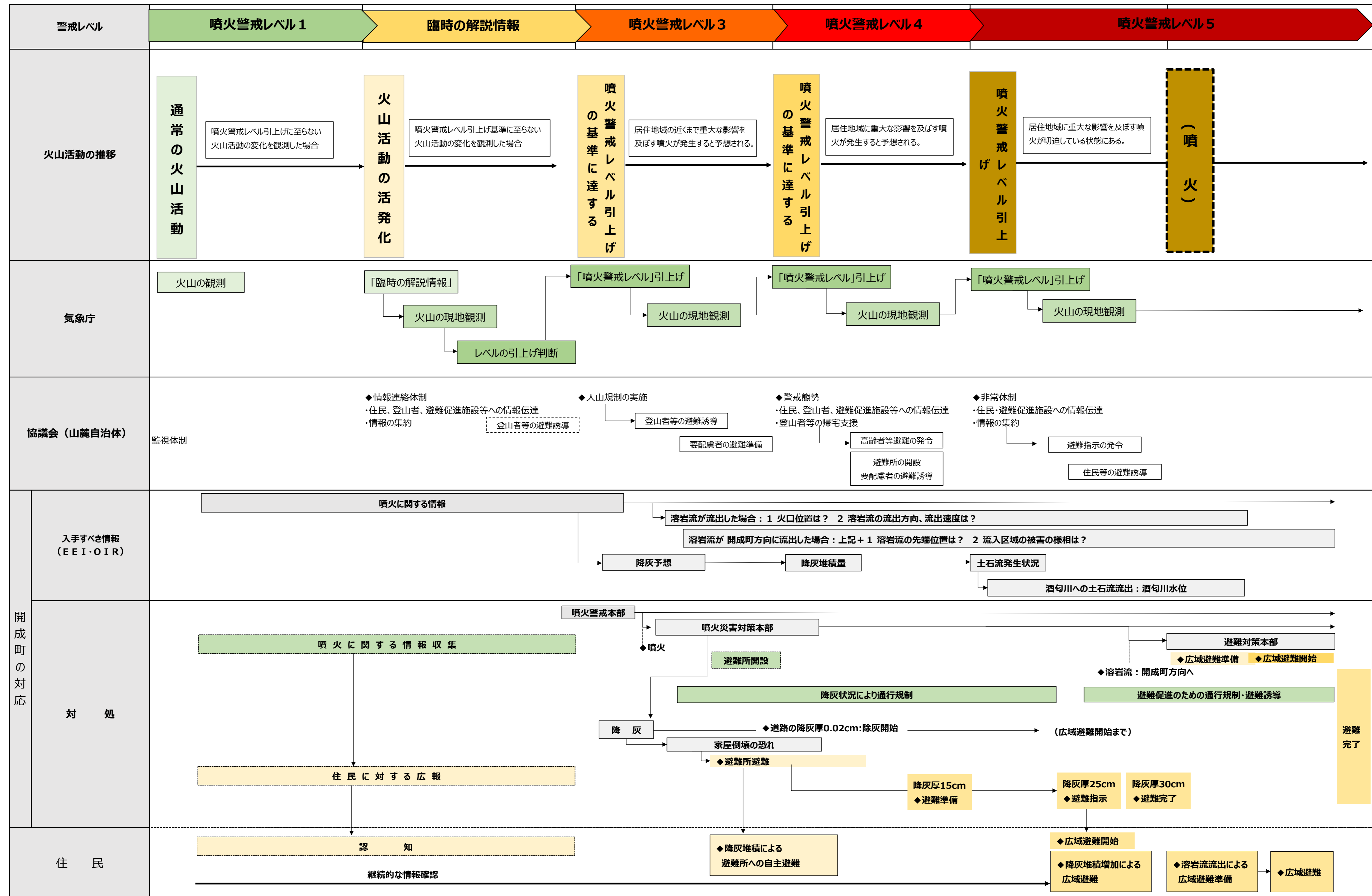
自動車に関する事項

- ・ 可能な限り自動車の使用を控える。
- ・ 運転の必要がある場合：ヘッドライト使用、ウインドウワッシャー液を十分に使用
- ・ エンジンオイル及びオイルフィルター、エアフィルターは頻繁に交換
- ・ エンジンルームは、庭の水かけ用ホース等で洗う。
- ・ 自動車を使用しない場合、吸気口を密封する。

除灰作業手順

段階	噴火前	噴火警報	噴火発生		噴火終了または休止		
情報	事前準備	降灰予報（定時）発表	降灰予報（速報）発表	降灰予報（詳細）発表	降灰終了又は中断	除灰作業	灰の処分
フェイス	0	1	2	3	4	5	6
県		<ul style="list-style-type: none"> 「降灰予報（定時）」情報を確認し関係機関へ火山活動情報を提供 噴火時の降灰範囲想定のため、気象庁発表の風に関する情報収集 降灰作業手順の確認 道路管理者（除灰業者）、協定先に情報提供 除灰応援協定確認 除灰優先道路（県道）の住民周知 火山灰一時仮置き場、処分方法検討 警察に対し、交通規制準備要請 	<ul style="list-style-type: none"> 気象庁発表情報による火山活動把握 火山現象種類について確認 関係機関への情報提供 道路管理者（除灰業者）へ連絡 	<ul style="list-style-type: none"> 気象庁からの情報、目視等により降灰厚確認 住民等への情報提供 関係機関への情報提供 「降灰予報（詳細）」情報を確認、除灰を行う区間の検討 道路管理者（除灰業者）に除灰作業準備に係る連絡 	<ul style="list-style-type: none"> 巡視等による降灰厚の確認 除灰作業実施の決定 	<ul style="list-style-type: none"> 除灰実施区間を決定し除灰業者へ指示 必要に応じ 自衛隊、TEC-FORCE、協定先に応援要請 除灰作業用車両の燃料確保 	
町		<ul style="list-style-type: none"> 住民等に対し情報提供・注意喚起 除灰する優先道路の住民周知 	<ul style="list-style-type: none"> 住民等へ情報提供・注意喚起 	<ul style="list-style-type: none"> 住民等へ情報提供・注意喚起 降灰状況を県へ報告 除灰実施区間について関係機関と調整⇒降灰厚30cm以上が想定される場合住民避難に係る対策実施 	<ul style="list-style-type: none"> 巡視等による降灰厚の確認 県に対し除灰要請 	<ul style="list-style-type: none"> 県に対し除灰等要請 住民等への情報提供 管理道路の除灰作業 	
協議会	<ul style="list-style-type: none"> 除灰方法の事前調整 情報伝達順の整理 除灰用資機材の保有状況確認 降灰厚に応じた除灰方法確認 除灰優先路線の設定 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じ協議会開催、対応方針確認 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じ協議会開催に向けた調整 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じ協議会開催に向けた調整 除灰作業の方向性の検討 関係機関の意思統一 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じ協議会開催 優先除灰路線、区間を検討し県、道路管理者（除灰者）と意思統一 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じ協議会開催 優先除灰路線、区間を検討し県、道路管理者（除灰者）と意思統一 	
松田警察署	<ul style="list-style-type: none"> 除灰厚の確認方法の確認 火山灰仮置き場選定 火山灰最終処分方法の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 道路管理者と降灰対応方針の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じ交通規制実施 道路交通確保のための交通誘導実施 	<ul style="list-style-type: none"> 道路交通不能となる10cm以上の降灰が確認、想定される場合、道路規制実施 道路交通確保のための交通誘導実施 必要に応じ緊急交通路の指定 	<ul style="list-style-type: none"> 優先して除灰する路線、区間等確認し交通規制実施 道路交通確保のための交通誘導実施 	<ul style="list-style-type: none"> 交通規制、交通誘導の実施による除灰区間への交通流入防止 道路交通確保のための交通誘導実施 	
道路管理者（除灰業者）		<ul style="list-style-type: none"> 除灰作業用資機材の確認 除灰作業のため事前の自主待機 道路管理者相互の連絡体制、除灰方法優先除灰路線等を調整 必要に応じ、除灰業者との契約 通行規制等に関する情報提供 道路交通規制情報の提供 	<ul style="list-style-type: none"> 除灰作業の準備開始 資機材保管場所での自主待機 除灰作業用資機材確認 道路交通規制情報の提供 	<ul style="list-style-type: none"> 想定降灰厚に応じた道路交通規制実施 資機材保管場所での自主待機 除灰作業用資機材確認 必要に応じ協定事業者とに除灰作業協力要請 道路交通規制情報の提供 	<ul style="list-style-type: none"> 降灰厚に応じた除灰作業の準備 除灰路線の確認 異なる道路管理者相互の除灰調整 	<ul style="list-style-type: none"> 降灰厚に応じた除灰作業の実施 必要に応じ協定事業者への除灰作業要請 放置車両の撤去 	
国		<ul style="list-style-type: none"> 県に火山活動情報提供 除灰用資機材の確保・確認 	<ul style="list-style-type: none"> 県から情報収集 県への派遣準備 	<ul style="list-style-type: none"> 県から情報収集 県への派遣準備 	<ul style="list-style-type: none"> 県から情報収集 県への派遣準備 	<ul style="list-style-type: none"> 県の要請に基づく除灰作業実施 	

別紙13 「噴火警戒レベルが事前に上げられた場合の対応」



注) 火山活動は急速に高まることがあり噴火警戒レベルが順を追って上昇するとは限らない。

別紙14 「突発的に噴火した場合（レベル1→噴火、レベル3→噴火）」の対応

警戒レベル	噴火警戒レベル1	噴火警戒レベル5	噴火警戒レベル3	噴火警戒レベル5
火山活動の推移	通常の火山活動 明瞭な前兆がなく突発的に噴火	噴火	異常現象の発生	噴火
気象庁	火山の観測 → 噴火後速やかな → 火山の現地観測 (噴火警戒レベルの上げ「噴火警報」)	火山の現地観測 → 噴火後速やかな → 火山の現地観測 (噴火警戒レベルの上げ「噴火警報」)	火山の現地観測 → 噴火後速やかな → 火山の現地観測 (噴火警戒レベルの上げ「噴火警報」)	火山の現地観測 → 噴火後速やかな → 火山の現地観測 (噴火警戒レベルの上げ「噴火警報」)
協議会 山麓自治体	監視体制 → 非常体制 → 住民、登山者避難促進施設への情報伝達 → 入山規制 → 緊急退避後の避難誘導検討 → 避難誘導支援	情報連絡体制 → 非常体制 → 住民、登山者避難促進施設への情報伝達 → 入山規制 → 避難指示 → 緊急退避後の避難検討 → 避難誘導支援	情報連絡体制 → 非常体制 → 住民、登山者避難促進施設への情報伝達 → 入山規制 → 避難指示 → 緊急退避後の避難検討 → 避難誘導支援	情報連絡体制 → 非常体制 → 住民、登山者避難促進施設への情報伝達 → 入山規制 → 避難指示 → 緊急退避後の避難検討 → 避難誘導支援
開成町の対応	入手すべき情報 (E E I・O I R) 噴火に関する情報 → 溶岩流が流出した場合：1 火口位置は？ 2 溶岩流の流出方向、流出速度は？ → 降灰予想 → 降灰堆積量 → 土石流発生状況 → 酒匂川への土石流流出：酒匂川水位	噴火に関する情報 → 溶岩流が流出した場合：1 火口位置は？ 2 溶岩流の流出方向、流出速度は？ → 降灰予想 → 降灰堆積量 → 土石流発生状況 → 酒匂川への土石流流出：酒匂川水位	噴火に関する情報 → 溶岩流が流出した場合：1 火口位置は？ 2 溶岩流の流出方向、流出速度は？ → 降灰予想 → 降灰堆積量 → 土石流発生状況 → 酒匂川への土石流流出：酒匂川水位	噴火に関する情報 → 溶岩流が流出した場合：1 火口位置は？ 2 溶岩流の流出方向、流出速度は？ → 降灰予想 → 降灰堆積量 → 土石流発生状況 → 酒匂川への土石流流出：酒匂川水位
	対 処 噴火災害対策本部 → ◆開成町方向に溶岩流流出 → 避難対策本部 → 広域避難準備 → 広域避難開始 ◆降灰 → 家屋倒壊の恐れ → 徐灰開始 → 降灰厚15cm → 降灰厚25cm 避難指示 避難所開設 住民に対する広報 ◆学校等休校・児童生徒等引取り連絡	噴火災害対策本部 → ◆開成町方向に溶岩流流出 → 避難対策本部 → 広域避難準備 → 広域避難開始 ◆降灰 → 家屋倒壊の恐れ → 徐灰開始 → 降灰厚15cm → 降灰厚25cm 避難指示 避難所開設 住民に対する広報 ◆学校等休校・児童生徒等引取り連絡	噴火災害対策本部 → ◆開成町方向に溶岩流流出 → 避難対策本部 → 広域避難準備 → 広域避難開始 ◆降灰 → 家屋倒壊の恐れ → 徐灰開始 → 降灰厚15cm → 降灰厚25cm 避難指示 避難所開設 住民に対する広報 ◆学校等休校・児童生徒等引取り連絡	噴火災害対策本部 → ◆開成町方向に溶岩流流出 → 避難対策本部 → 広域避難準備 → 広域避難開始 ◆降灰 → 家屋倒壊の恐れ → 徐灰開始 → 降灰厚15cm → 降灰厚25cm 避難指示 避難所開設 住民に対する広報 ◆学校等休校・児童生徒等引取り連絡
住民行動	◆噴火認知 ◆児童等引取り ◆降灰堆積による避難所への自主避難 ◆降灰堆積増加による広域避難 ◆溶岩流流出による広域避難	◆噴火認知 ◆児童等引取り ◆降灰堆積による避難所への自主避難 ◆降灰堆積増加による広域避難 ◆溶岩流流出による広域避難	◆噴火認知 ◆児童等引取り ◆降灰堆積による避難所への自主避難 ◆降灰堆積増加による広域避難 ◆溶岩流流出による広域避難	◆噴火認知 ◆児童等引取り ◆降灰堆積による避難所への自主避難 ◆降灰堆積増加による広域避難 ◆溶岩流流出による広域避難